

秋田市 中心市街地 活性化プラン

集い・楽しみ・住み・創る、選ばれるまち。

～城下町ルネサンスの継承～



秋 田 市

令和5年3月策定

(令和6年3月 第1回変更、令和7年3月 第2回変更、
令和8年3月 第3回変更)

市長あいさつ

「集い・楽しみ・住み・創る、選ばれるまち。」を目指して

秋田市長 穂積 志

本市の中心市街地は、藩政時代より、政治・経済・商業・文化・教育の中心地として繁栄し、今でも都市の風格を醸し出す本市をイメージする“顔”であり、第14次秋田市総合計画では、コンパクトシティの核、高次都市機能の集積を図る地区と位置づけております。

これまで、「第2期秋田市中心市街地活性化基本計画」に基づき官民一体となった取組が行われてきたところであり、にぎわい創出の中核となるあきた芸術劇場ミルハスや文化創造館、民間マンションの整備などと相まって、居住人口の増加や地価の上昇といった明るい兆しが見え始めています。

一方、回遊性の向上や大規模な低未利用地・空き店舗の解消などの課題も残っており、今後は、こうした課題を検証した上でさらなる活性化とにぎわいの創出を図っていく必要があるため、このたび、令和5年度からの5年間を計画期間とする「秋田市中心市街地活性化プラン」を策定し、鋭意取り組んでいくことといたしました。

本プランでは中心市街地が、にぎわいにあふれ芸術文化と触れあえる集いの場として、あるいは、居住の場、創業の場、まちづくりなどに関する市民活動の場として、様々な場面で今以上に選ばれることを目指し、「集い・楽しみ・住み・創る、選ばれるまち。」を基本コンセプトに設定しました。

基本コンセプトに基づき取組を進めるにあたり、本プランでは5つの目標と取組方針を定め、活性化のための各種事業等を位置づけております。事業等の実施にあたっては、今まで以上に官民が連携することが重要であるため、事業者および市民の皆様には、今後の中心市街地の活性化についてご協力いただくとともに、愛着と誇りを持てる中心市街地を共に築いていきたいと考えております。

結びに、本プランの策定にあたりお力添えをいただいた、秋田市中心市街地活性化協議会の皆様をはじめ、多くの市民の皆様には、心から感謝を申し上げます。



令和5年3月

目次

Chapter

01

本計画の概要・位置づけ

秋田市中心市街地活性化プランとは 01

Chapter

02

中心市街地の現況

統計データから見た整理 07

市民ニーズから見た整理 09

第2期計画の目標指標の達成状況から見た整理 11

中心市街地の現況のまとめ 26

Chapter

03

中心市街地活性化の課題 27

Chapter

04

中心市街地活性化の基本コンセプト・将来像（イメージ）

中心市街地活性化の基本コンセプト 29

中心市街地活性化の将来像（イメージ） 29

Chapter

05

中心市街地活性化の目標

5つの目標設定・目標内容 31

目標1 人々が集いにぎわうまち 33

目標2 芸術文化が香るまち 35

目標3 暮らしたくなるまち 37

目標4 チャレンジできるまち 39

目標5 市民がつくるまち 41

目標値の算出 43

Chapter

06

事業リスト 51

Chapter

07

計画の推進にあたって

計画の進捗管理 53

フォローアップの実施 53

本計画の概要・位置づけ

秋田市中心市街地活性化プランとは

これまでの計画の経緯・本計画の趣旨

秋田市では、平成20年7月から平成26年6月にかけて、「秋田市中心市街地活性化基本計画（第1期計画）」に基づき、中心市街地の活性化に向けた各種事業を実施し、にぎわい拠点となる「エリアなかいち」の施設整備などを実施してきました。

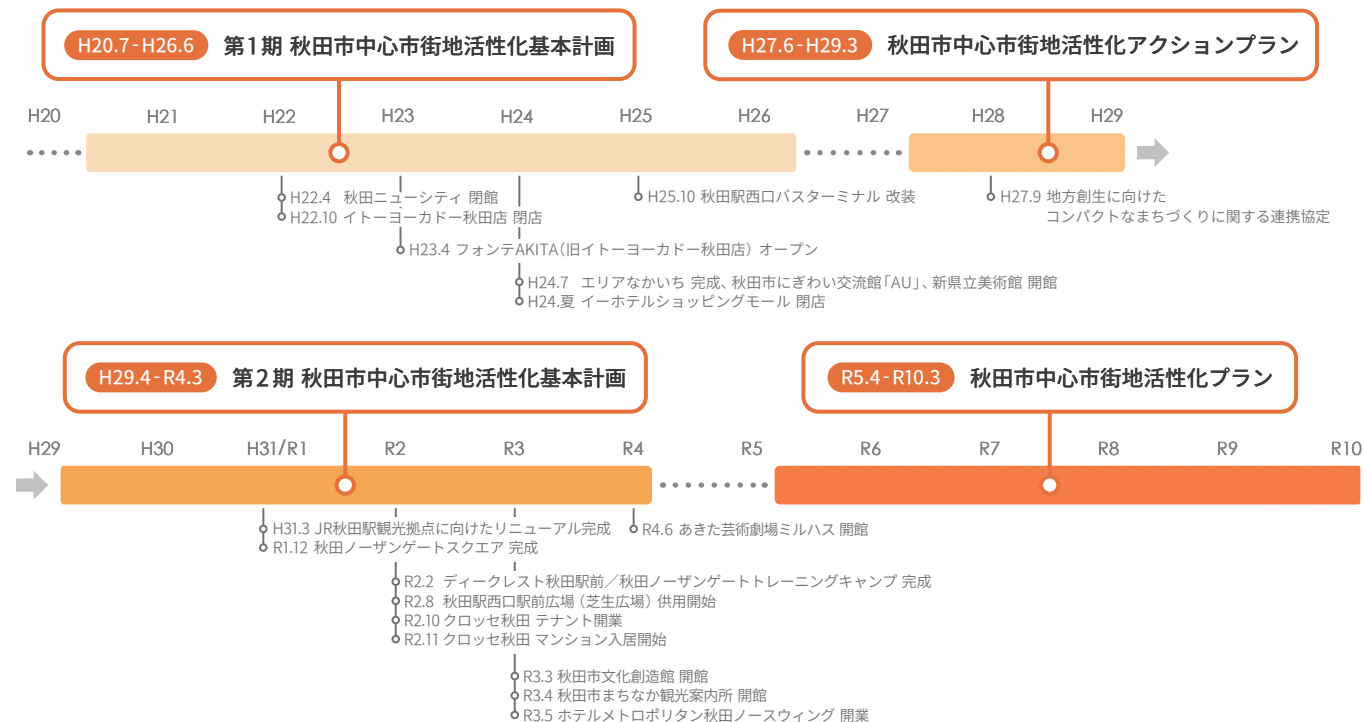
また、第2期計画（平成29年4月～令和4年3月）では、「あきた芸術劇場ミルハス」や「秋田市文化創造館」などの芸術文化ゾーンにおける整備、「秋田駅西口駅前広場（芝生広場）」や「千秋久保田町線」の整備のほか、官民の各種ソフト事業などを実施しました。

第2期計画においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、達成できなかった目標指標もありましたが、中心市街地の人口増加や地価の上昇などが見られ、官民の活性化に向けた取組による一定の成果がありました。

さらに、「あきた芸術劇場ミルハス」の開館に続き、今後、「千秋美術館の改修」や、「佐竹史料館の建て替え」など、芸術文化ゾーンを中心に新たなハード事業や、官民の連携による各種ソフト事業を実施予定です。

中心市街地に見えてきたこの好機を逃さず、課題を検証した上で、本市をイメージする「顔」、コンパクトシティの核として、今後も継続して活性化に取り組むため、「秋田市中心市街地活性化プラン」を策定しました。

今後は、本計画に基づき、中心市街地の活性化に向けて各種施策に取り組めます。



計画の流れ

計画の概要・位置づけ

対象エリア、ゾーニングの設定等

上位・関連計画との関係

中心市街地の現況

統計データ

市民ニーズ

第2期計画の目標指標の達成状況

中心市街地活性化の課題

課題1 既存施設を活かした来街者増加と回遊性の向上

課題2 居住環境の向上による住みやすいまちづくり

課題3 商店街の魅力向上と中心市街地活性化の担い手の育成

基本コンセプト・将来像（イメージ）

集い・楽しみ・住み・創る、選ばれるまち。
～城下町ルネサンスの継承～

目標・取組方針

目標1 人々が集いにぎわうまち

✓ 取組方針 各種イベントなどによるにぎわいの波及

目標2 芸術文化が香るまち

✓ 取組方針 芸術文化と身近にふれあえる環境づくり

目標3 暮らしたくなるまち

✓ 取組方針 暮らしのための環境整備

目標4 チャレンジできるまち

✓ 取組方針 商店街等の魅力向上と活性化への支援

目標5 市民がつくるまち

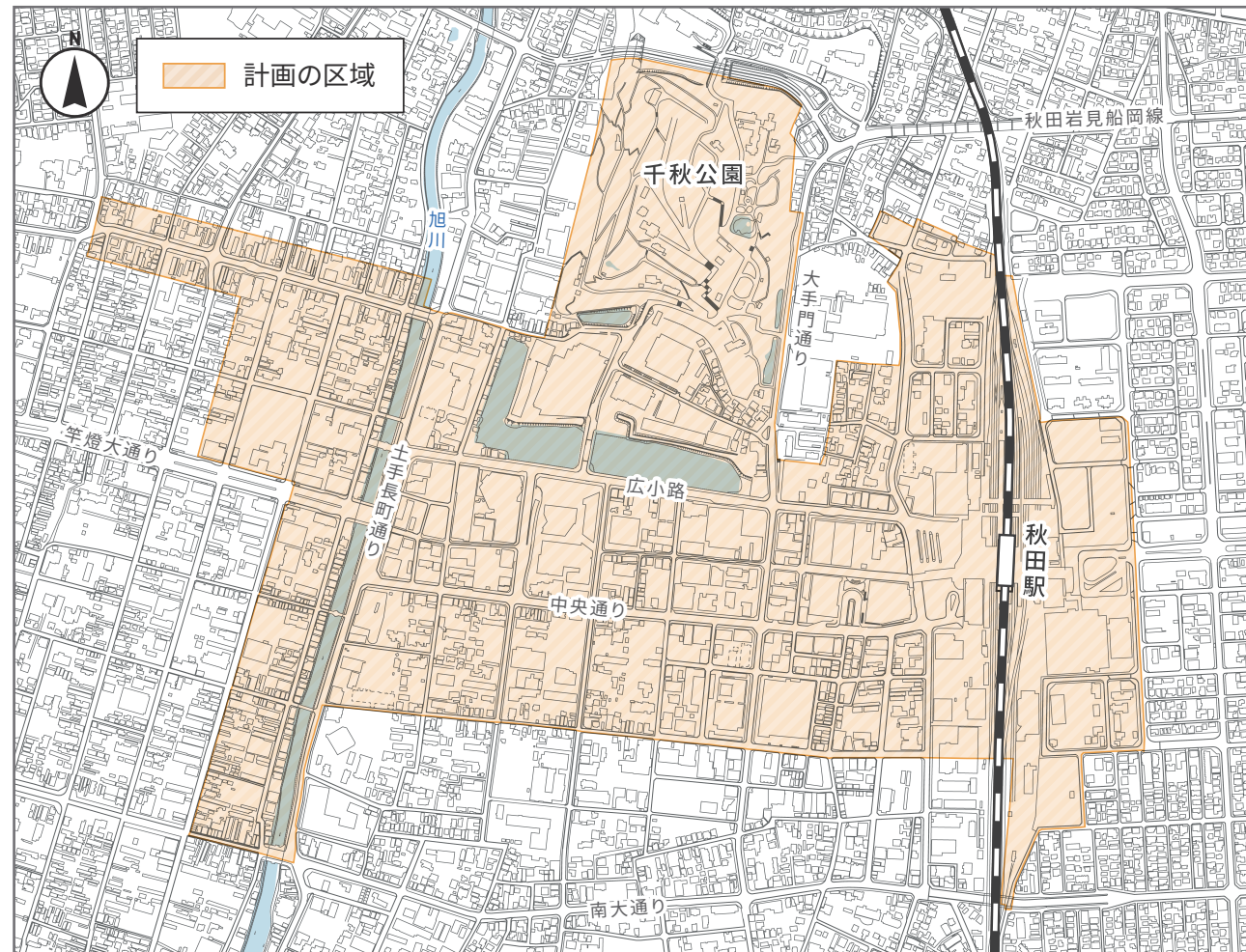
✓ 取組方針 まちに関わりまちを楽しむひとづくり

計画期間

本計画は、令和5年4月から令和10年3月までの5年間を計画期間とします。

計画の区域

本計画では、「秋田市中心市街地活性化基本計画（第2期計画）」を踏襲し、下図に示す約115haの範囲を計画の区域とします。



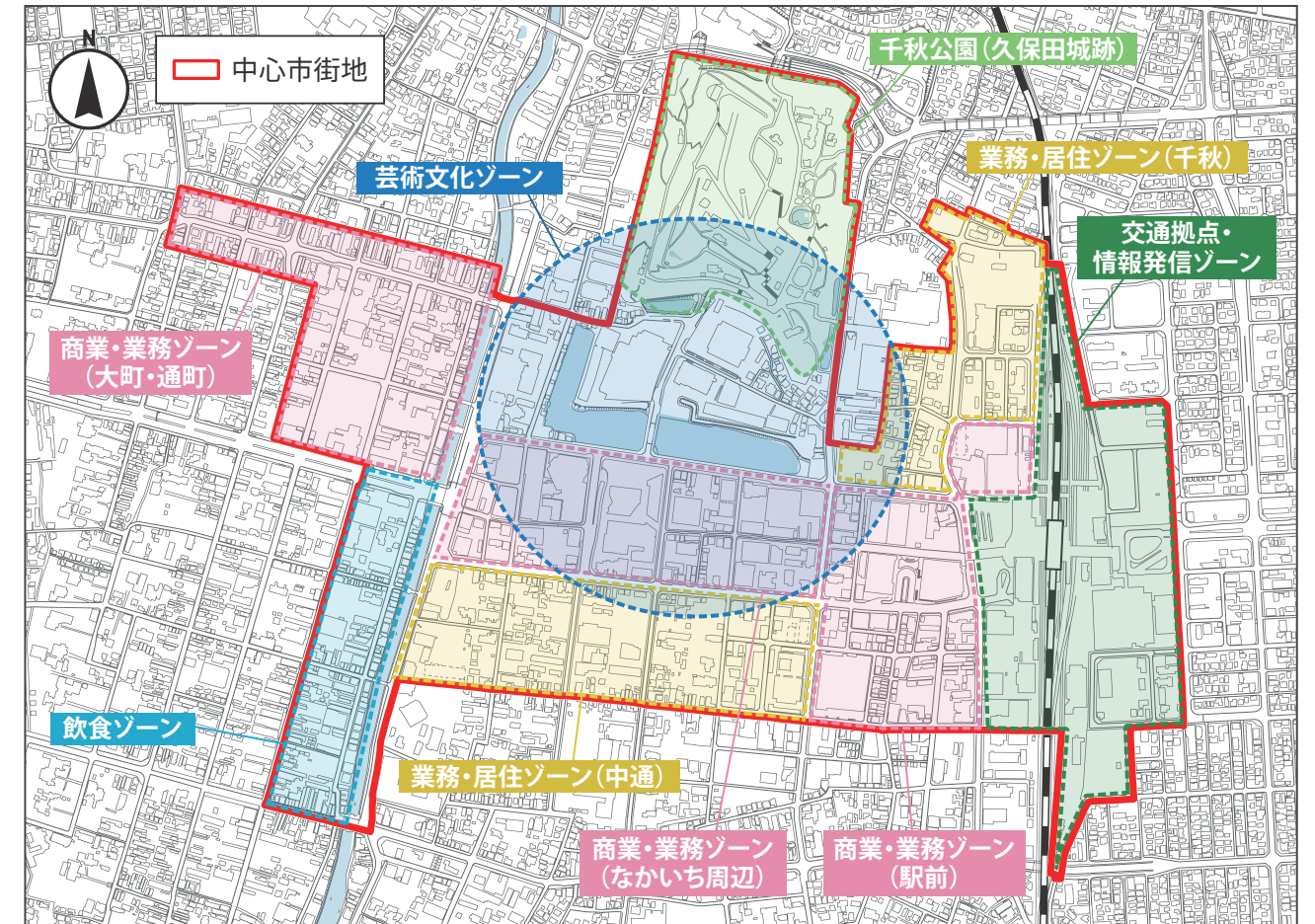
中心市街地の成り立ち

現在の中心市街地は、慶長9年（1604）に佐竹義宣が久保田城に入城してから明治4年（1871）の廃藩置県まで約270年間、政治・経済・商業・文化・教育の中心地でした。その後、近代公園として整備された千秋公園やその外堀と文化施設の立地する城跡一帯は、都市の風格を醸し出し、今日でも秋田市民の心の拠り所となっています。

中心市街地のゾーニング

ゾーニングは基本的に第2期計画を継承し、設定しました。

本計画におけるゾーニング

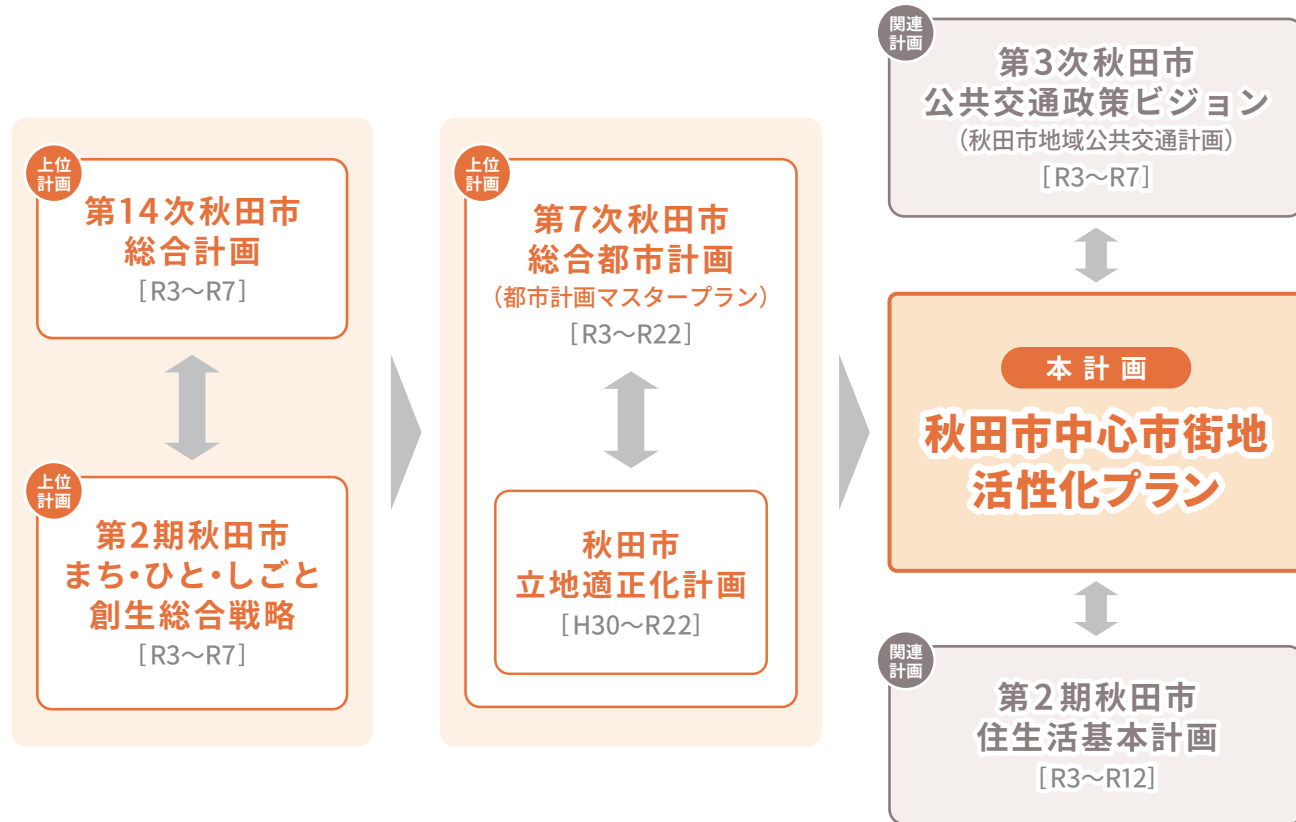


各ゾーンの考え方

ゾーン名	主な範囲	方向性
芸術文化ゾーン	千秋公園と周辺の芸術文化施設を含む一帯	芸術文化施設と周辺商業施設の連携により、多世代が交流するにぎわい拠点として活性化を図る
商業・業務ゾーン	なかいち周辺	市内外から買い物客や公共施設利用者、観光客を呼び込む
	駅前	各種イベントの実施やアクセス性改善により活性化を図る
	大町・通町	商店街一帯の活性化を図る
交通拠点・情報発信ゾーン	秋田駅	中心市街地内外からの移動拠点
飲食ゾーン	川反	県内随一の繁華街として、観光客を含む様々な層が集まる
業務・居住ゾーン	中通・千秋久保田町	中心市街地の恒常的な活性化を支える居住人口の増加

上位・関連計画との関係

本計画は本市の上位・関連計画など、さまざまな計画と連携し、中心市街地の活性化を具体的に進めるための計画として位置づけます。



計画名	基本理念等
第14次 秋田市総合計画 [R3~R7]	基本理念 ともにづくり ともに生きる 人・まち・くらし ～元気で豊かさを次世代に 人口減少を乗り越えて～ 将来都市像 1：豊かで活気に満ちたまち 将来都市像 2：緑あふれる環境を備えた快適なまち 将来都市像 3：健康で安全安心に暮らせるまち 将来都市像 4：家族と地域が支えあう元気なまち 将来都市像 5：人と文化をはぐくむ誇れるまち
第2期秋田市 まち・ひと・しごと 創生総合戦略 [R3~R7]	基本目標 1：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる 基本目標 2：魅力的で安定したしごとの場をつくる 基本目標 3：多様なつながりを築き、秋田市への新しいひとの流れをつくる 基本目標 4：高齢者が健康でいきいきと暮らせるまちづくりを進める 基本目標 5：持続可能な魅力ある地域をつくり、安全安心な暮らしを守る

計画名	基本理念等
第7次秋田市 総合都市計画 (都市計画マスタープラン) [R3~R22]	まちづくりの 基本理念 暮らしの豊かさを次世代につむぐ 持続可能な活力ある都市 ～「市民の生活」や「地域の文化」を守り、未来へ引き継ぐまちづくり～ まちづくり目標 1：市民生活を支える持続可能な多核集約型コンパクトシティの形成 まちづくり目標 2：環境の保全・創造による低炭素型まちづくり まちづくり目標 3：多様な資源をいかした緑豊かな都市環境の形成 まちづくり目標 4：安全・安心な暮らしを守る生活環境の形成
秋田市 立地適正化計画 [H30~R22]	計画の目標 多核集約型の都市構造の実現により 創出を目指す「暮らしの場」 目標 1：高齢者が健康で、活動・活躍できる「場」の創出による、生きがいのある暮らしの実現 目標 2：子育て世代が時間効率メリットを得られる「場」の創出による、子どもとの時間を大切にできる暮らしの実現 目標 3：集い・にぎわい・交流が生まれる「場」の創出による、県都『あきた』の新たな都市型生活の実現
第3次秋田市 公共交通政策 ビジョン (秋田市地域公共交通計画) [R3~R7]	基本的な 方針 まちの変化に柔軟に対応し、誰もが自由に移動できる、 将来にわたり持続可能な公共交通サービスの実現 目標 1：多核集約型の都市構造を形成する公共交通ネットワークの整備 目標 2：利便性向上、バス路線運営適正化に向けた取組の推進 目標 3：持続可能な公共交通の確保に向けた仕組みづくりの推進
第2期秋田市 住生活基本計画 [R3~R12]	将来像 誰もが「住みたい」「住み続けたい」とおもう 秋田の住まい・まちづくり 【目標1】 安全・安心に暮らせる住まい・まちづくり 【目標2】 誰もが快適に住み続けられる住まい・まちづくり 【目標3】 地域のなかで住み続けられる住まい・まちづくり 【目標4】 「環境立市あきた」を実現する住まい・まちづくり 【目標5】 自然と都市が調和した秋田らしい住まい・まちづくり

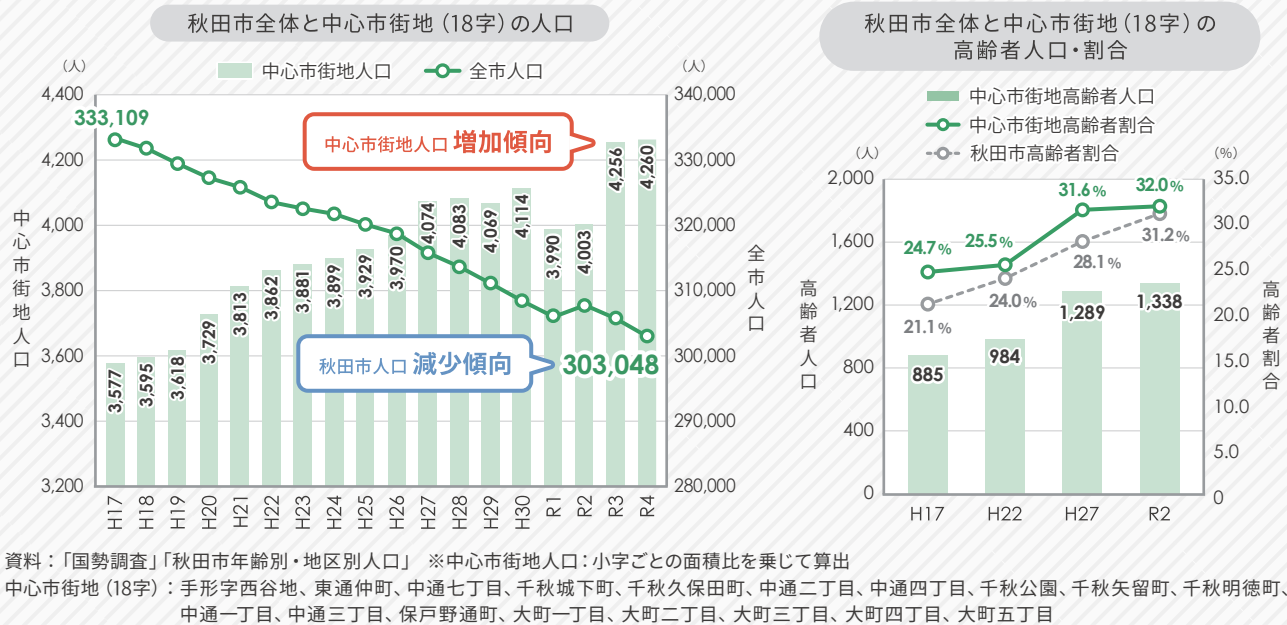
中心市街地の現況

第2章では、秋田市全体や中心市街地に関する各種統計データ、令和4年4月に市民ニーズの把握のために実施したアンケート調査、第2期計画で設定した目標指標の達成状況の3つの視点から、中心市街地の現況について検証します。

視点1 統計データから見た整理

人口動向

- 秋田市全体の人口は減少傾向にあるものの、中心市街地の人口はマンション建設などにより増加傾向にあります。
- 一方で、高齢化率は秋田市全体の傾向と同様に増加傾向にあります。



商業動向

- 中心市街地に空き店舗が継続的に発生しています。

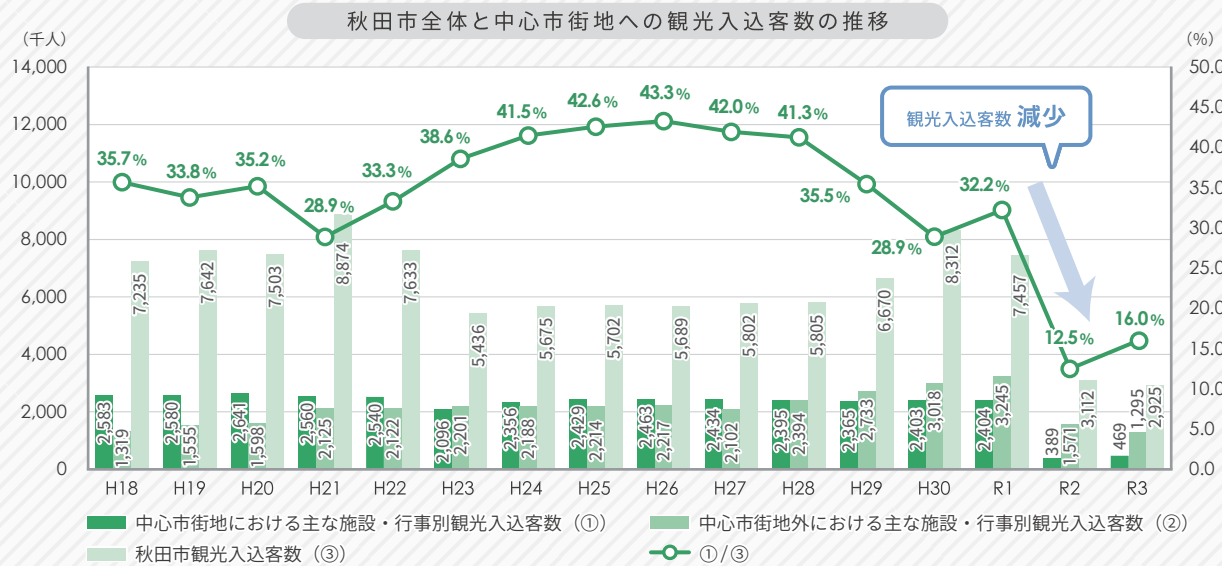
資料：秋田市商工貿易振興課

空き店舗の定義：
各商店街振興組合等の区域において、建物の1階部分が空いて、事業者を募集している物件
※各商店街振興組合等：駅前広小路商店街振興組合、広小路商店街振興組合、旧中央通商店街振興組合、大町商店街振興組合通町商店街振興組合、仲小路振興会
※令和4年調査においては、データ収集方法が変更となったため、旧中央通商店街振興組合について計測していない。



観光

- 近年、中心市街地における観光入込客数は、ほぼ横ばいの傾向でした。
- 令和2～3年の観光入込客数は新型コロナウイルス感染拡大の影響により大幅に減少しました。



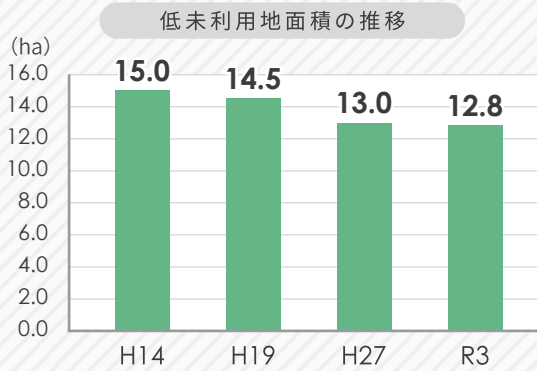
資料：「令和3年秋田県観光統計」（秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課）

※平成23年以降の観光地点等入込客数調査については、調査対象地点を平成23年から観光庁による共通基準に基づく区分に変更したため、平成22年以前のデータとは単純に比較できない。

土地

低未利用地

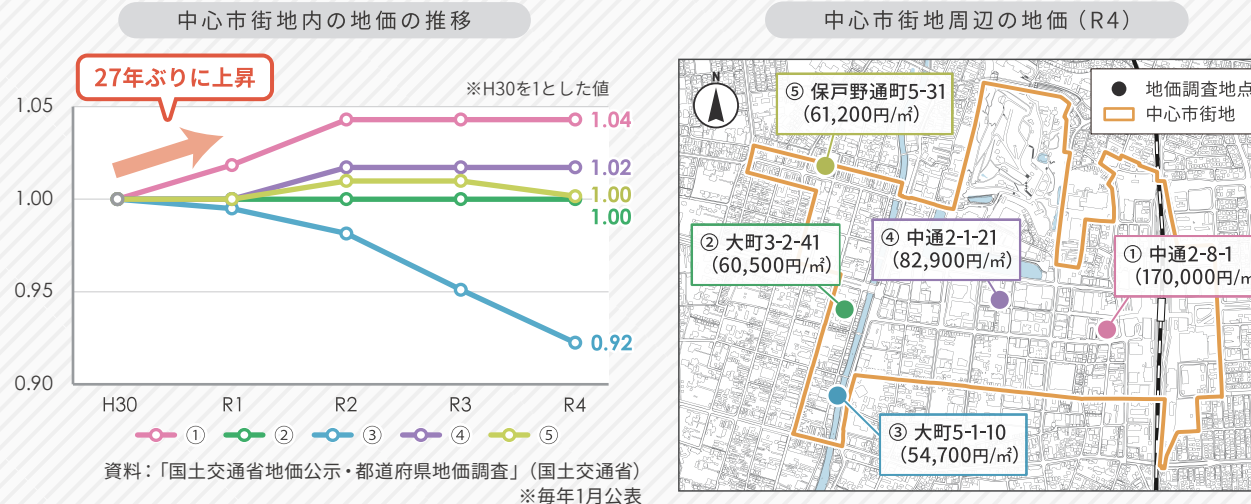
- 中心市街地には約12.8haの低未利用地が存在しています。
- そのうち、隣接地と合わせて、おおむね1,000㎡以上となる大規模低未利用地は約6.8haとなっています。



資料：秋田市都市総務課

地価

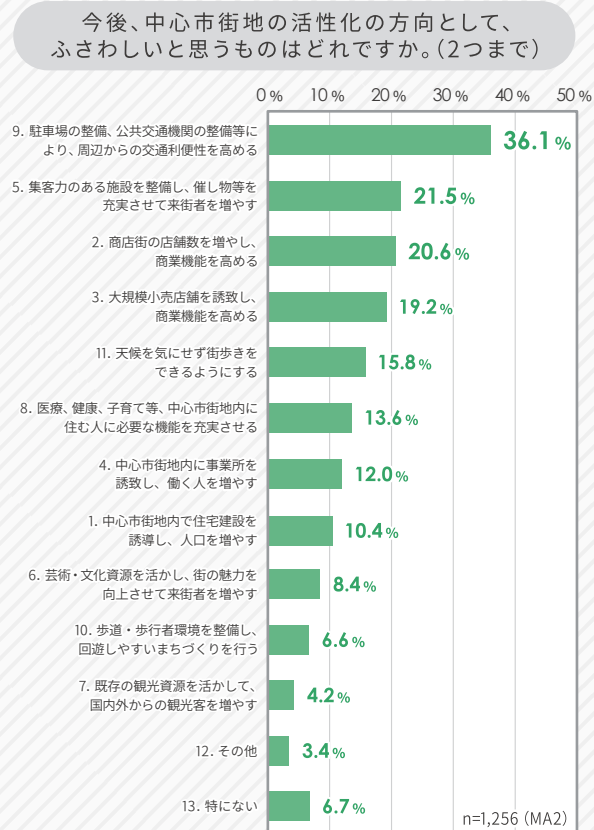
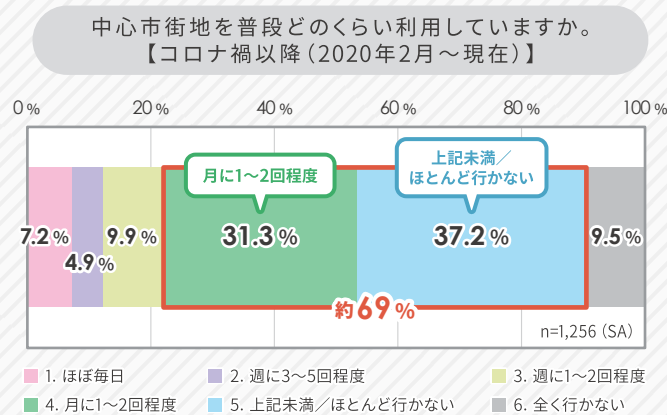
- 駅前商業地の一部地点の地価が、令和元年に27年ぶりに上昇に転じました。



視点2 市民ニーズから見た整理

市民アンケート調査

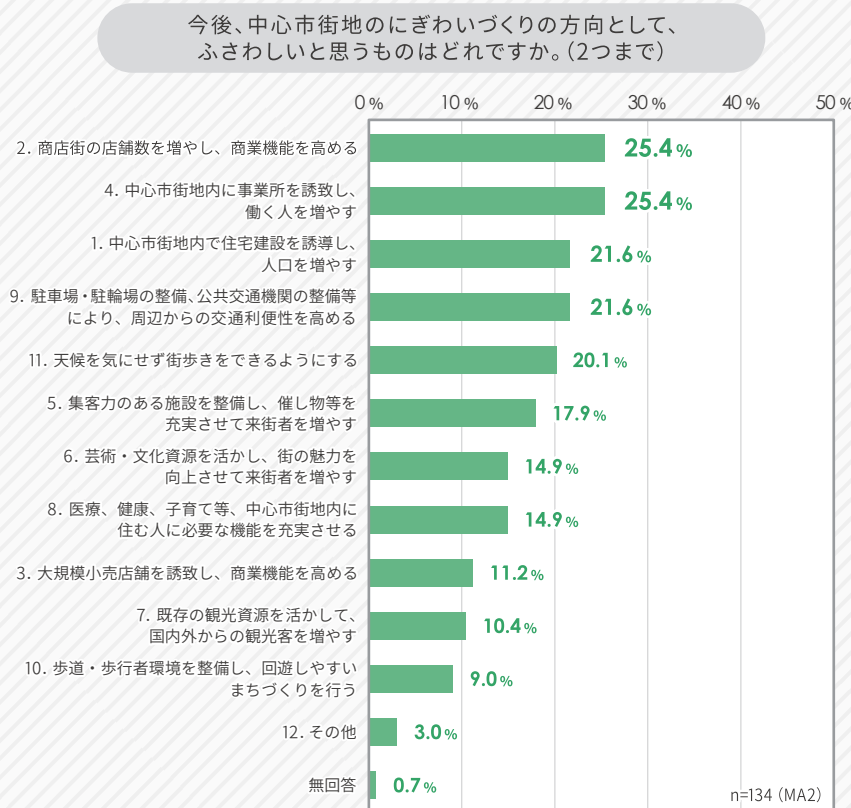
- 中心市街地への来訪頻度は「月に1～2回」「上記未滿/ほとんど行かない」といった低頻度が約69%を占めています。
- 今後の中心市街地活性化の方向性として「周辺からの交通利便性を高める」「集客力のある施設整備等来訪者を増やす」「商店街の店舗数を増やす」といった項目を回答した人が多くなっています。



資料：市民アンケート調査結果（令和4年4月）

商店主アンケート調査

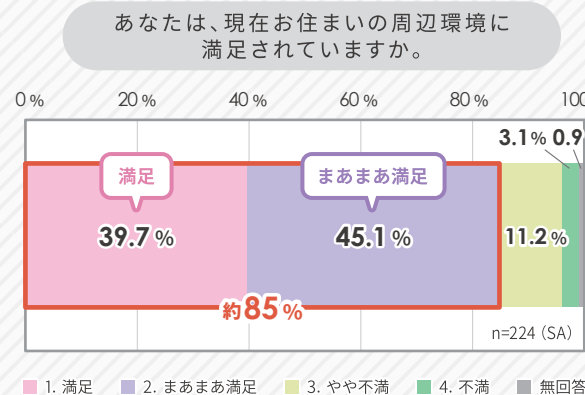
- 今後の中心市街地活性化の方向性として「店舗数を増やし商業機能を高める」「中心市街地内に事業所を誘致し働く人を増やす」といった項目を回答した人が多くなっています。



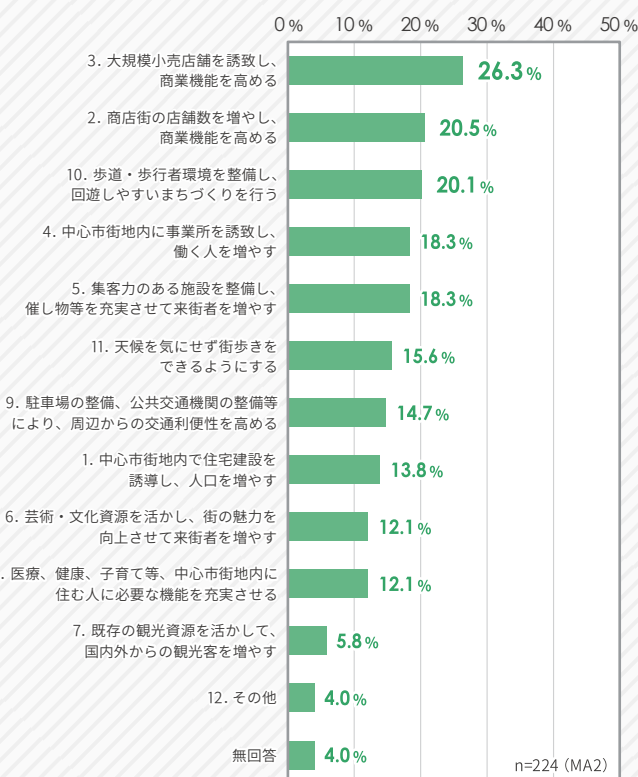
資料：商店主アンケート調査結果（令和4年4月）

居住者アンケート調査

- 居住者の周辺環境への満足度は「満足」「まあまあ満足」を合わせて約85%と高い満足度を示しています。
- 今後のまちづくりの方向として「大規模小売店舗を誘致し、商業機能を高める」、「商店街の店舗数を増やし、商業機能を高める」、「歩道・歩行者環境を整備し、回遊しやすいまちづくりを行う」がふさわしいといった意見が多くなっています。



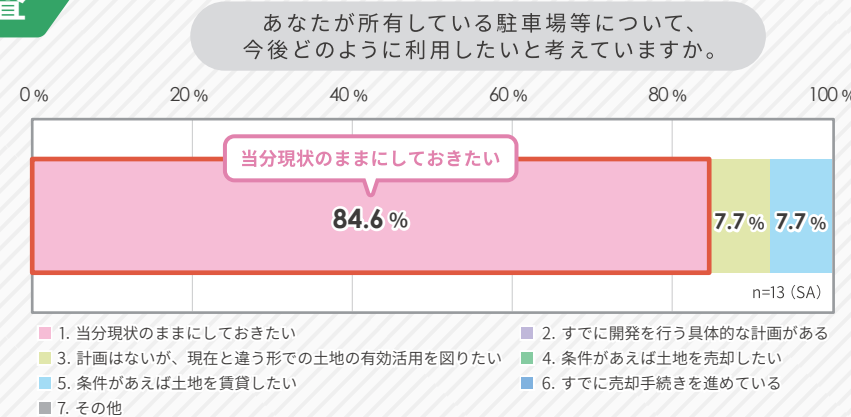
今後、中心市街地のまちづくりの方向として、ふさわしいと思うものはどれですか。（2つまで）



資料：居住者アンケート調査結果（令和4年4月）

低未利用地アンケート調査

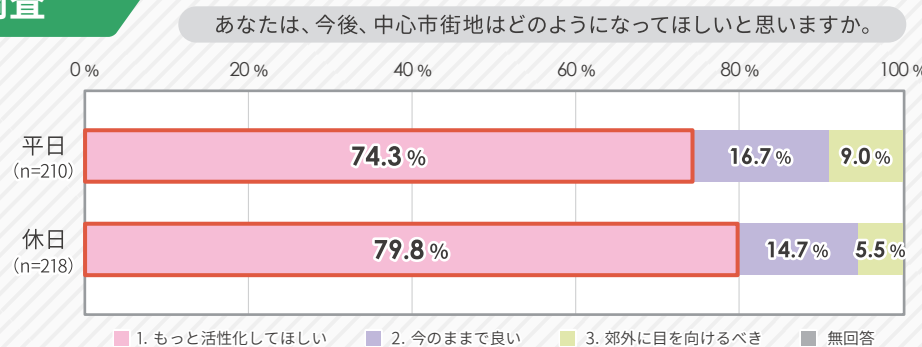
- 低未利用地の今後の活用方針として「当分現状のままにしておきたい」が約85%を占めています。
- 「現在と違う形で有効活用を図りたい」といった意見も少数見られました。



資料：低未利用地アンケート調査結果（令和4年4月）

街頭ヒアリング調査

- 中心市街地に対して、平日・休日ともに70%以上の来訪者が「もっと活性化してほしい」と更なる活性化を求めています。



資料：街頭ヒアリング調査結果（平日：令和4年4月11日(月)、休日：令和4年4月10日(日)）

視点3 第2期計画の目標指標の達成状況から見た整理

本市では、平成29年3月に秋田市中心市街地活性化基本計画（第2期計画）の内閣総理大臣の認定を受け、中心市街地の総合的活性化に取り組んできました。

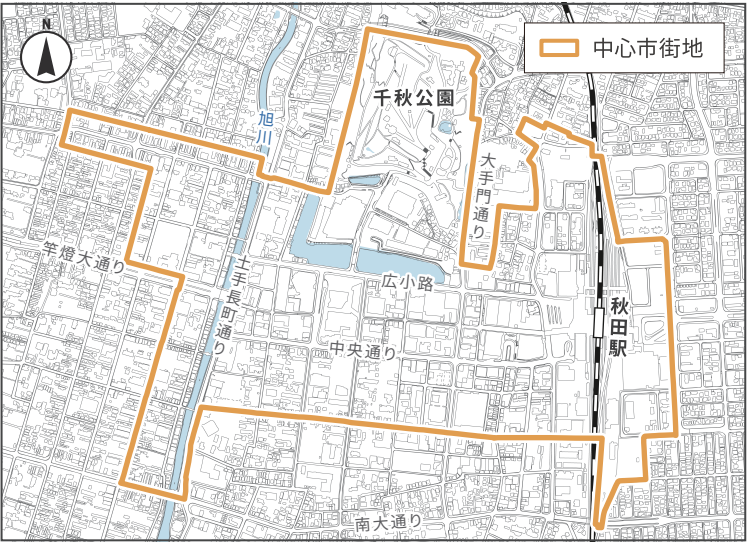
(1) 第2期計画の概要

計画期間 平成29年4月～令和4年3月 区域面積 約115ha

中心市街地活性化の基本的な方針および目標

基本方針	目標	目標指標	基準値	目標値
1 多様な人々が行き交い、新しい文化を育む舞台の形成	行きたい街 市内外から来訪する多くの交流人口が行き交うまち	歩行者・自転車通行量 (平日・休日の平均)	32,484人 (H28)	35,000人 (R3)
		芸術文化施設利用者数	966人/日 (H27)	1,530人/日 (R3)
2 快適な居住環境の形成と既存ストックの有効活用	住みたい街 愛着と誇りを持って多くの市民が暮らすまち	中心市街地における人口の社会増加数	26人 (H24～H28の累計)	240人 (H29～R3の累計)
3 店舗を主とした事業所の立地促進と市民活動の推進	活力ある街 新たな市民文化を育む多世代が交流する活力あるまち	商業集積促進関連制度利用件数	34件 (H23～H27の累計)	50件 (H29～R3の累計)
		市民活動等施設利用件数	20,196件 (H27)	20,800件 (R3)

区域図



(2) 第2期計画の事業の進捗状況

第2期計画で掲載した66事業のうち、65事業が計画期間内に実施され、1事業が未実施となっています。

事業実施状況

実施事業 65事業		支援制度
1	消融雪施設整備事業	防災・安全交付金（道路事業）
2	市道千秋明德町1号線無電柱化事業	防災・安全交付金（道路事業）
3	都市計画道路事業千秋久保田町線	防災・安全交付金（道路事業）
4	秋田駅西北地区土地区画整理事業	社会資本整備総合交付金（道路事業）
5	秋田ノーザンゲートスクエア整備事業	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）
6	千秋公園整備事業	防災・安全交付金（都市公園・緑地等事業）
7	秋田駅北北第一地区市街地再開発事業	
8	コミュニティサイクル導入調査事業	
9	あきた芸術劇場整備事業（県・市連携文化施設整備事業）	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）
10	秋田市文化創造館整備事業	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）
11	ノーザンステーションゲート秋田プロジェクト	
12	秋田版CCRC事業（中通二丁目地区優良建築物等整備事業）	中心市街地共同住宅供給事業
13	まちなか居住推進事業（空き家定住推進事業）	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業（地域住宅政策推進事業））
14	住宅リフォーム支援事業	防災・安全交付金（住宅・建築物安全ストック形成事業と一体の効果促進事業）
15	文化創造プロジェクト推進経費	中心市街地活性化ソフト事業
16	官民連携秋田駅周辺活性化事業	中心市街地活性化ソフト事業
17	なかいちウィンターパーク	中心市街地活性化ソフト事業
18	アキタミュージックフェスティバル（AkitaMusicFestival）	中心市街地活性化ソフト事業
19	千秋公園桜まつり・つつじまつり	中心市街地活性化ソフト事業
20	中心市街地出店促進融資あっせん制度	中心市街地活性化ソフト事業
21	中心市街地商業集積促進補助制度	中心市街地活性化ソフト事業
22	中心市街地まちづくりイベント支援事業	中心市街地活性化ソフト事業
23	ギュギュっとあきた週末イベントリレー開催経費	中心市街地活性化ソフト事業
24	これが秋田だ！食と芸能大祭典事業	中心市街地活性化ソフト事業
25	大型コンベンションおもてなし推進事業	中心市街地活性化ソフト事業
26	観光客等受入促進事業	中心市街地活性化ソフト事業
27	秋田竿燈まつり	中心市街地活性化ソフト事業
28	「美術館の街」活性化事業	中心市街地活性化ソフト事業
29	ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」魅力発信事業	中心市街地活性化ソフト事業
30	秋田犬ふれあい事業	中心市街地活性化ソフト事業
31	アジアトライ千秋芸術祭	中心市街地活性化ソフト事業
32	羽州街道歴史観光推進事業	中心市街地活性化ソフト事業

事業実施状況

実施事業 65事業		支援制度
33	中心市街地魅力アップ事業	中心市街地活性化ソフト事業
34	あきたピアノフェスティバル	中心市街地活性化ソフト事業
35	旧県立美術館活用事業	社会資本整備総合交付金 (暮らし・にぎわい再生事業と一体の効果促進事業)
36	川反通りサイン・アーチ設置事業	地域・まちなか商業活性化支援事業 (地域商業自立促進事業)
37	広小路インバウンド対策事業	商店街・まちなかインバウンド促進支援事業 (商店街インバウンド促進支援事業)
38	秋田市民市場活性化事業（再形成事業）	地域・まちなか商業活性化支援事業 (地域商業自立促進事業)
39	チャレンジオフィスあきた運営事業	地方創生拠点整備交付金・地方創生推進交付金
40	なかこうじ街中ハロウィンフェスタ	G o T o商店街
41	店舗魅力向上推進事業	
42	なかいち芸術文化施設連携事業	
43	ウェルカムミュージック事業	
44	小売業等チャレンジ支援事業	
45	商工業振興奨励措置事業	
46	市民協働・市民活動支援事業	
47	アルヴェきらめきパフォーマー事業	
48	あきた光のファンタジー	
49	ヤートセ秋田祭	
50	ふるさと駅前カーニバル&エキマエキャンドルアート	
51	仲小路仲の日	
52	通町通の市	
53	招福狐の行列	
54	通町草市	
55	星辻神社だるま祭り	
56	大町トワイライトリレーコンサート	
57	商店街スゴロク	
58	アキタ・パール街	
59	川反サンバカーニバル	
60	川反外町街なかインバウンド促進事業	
61	たまご遊園地夏祭り	
62	大型商業施設のリニューアル	
63	秋田拠点センターアルヴェローカル 5G基地局整備経費負担金	
64	中心市街地循環バス運行事業	中心市街地活性化ソフト事業
65	高齢者コインバス事業	

未実施 1事業	
66	旧秋田魁新報社跡地への商業施設の整備

(3) 第2期計画の目標ごとの評価

1) 目標指標の達成状況

第2期計画では、3つの活性化の目標と5つの目標指標を掲げており、最終フォローアップにおける目標指標の達成状況は下表のとおりとなっています。

- ✓

「商業集積促進関連制度利用件数」は目標値を達成
- ✓

「中心市街地における人口の社会増加数」は目標値には達していないものの増加傾向
- ✓

「歩行者・自転車通行量」、「芸術文化施設利用者数」、「市民活動等施設利用件数」は目標値未達（新型コロナウイルス感染拡大が影響）

目標指標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	期末値		達成率 (期末値/目標値)	達成状況
				(数値)	(年月)		
行きたい街	歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）	32,484人 (H28)	35,000人 (R3)	20,539人	R3.7	59%	×
	芸術文化施設利用者数（1日あたり）	966人/日 (H27)	1,530人/日 (R3)	290人/日	R4.3	19%	×
住みたい街	中心市街地における人口の社会増加数（累計）	26人 (H24~H28の累計)	240人 (H29~R3の累計)	27人 (H29~R3の累計)	R3.10	11%	△
活力ある街	商業集積促進関連制度利用件数（累計）	34件 (H23~H27の累計)	50件 (H29~R3の累計)	181件 (H29~R3の累計)	R4.3	362%	達成 ○
	市民活動等施設利用件数	20,196件 (H27)	20,800件 (R3)	17,082件	R4.3	82%	×

○達成、△未達成（改善）、×未達成

2) 各目標指標の達成状況の分析

1 歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）

行きたい街

※各年7月後半の休日およびその直後の平日において計測。調査時間 10:00～19:00

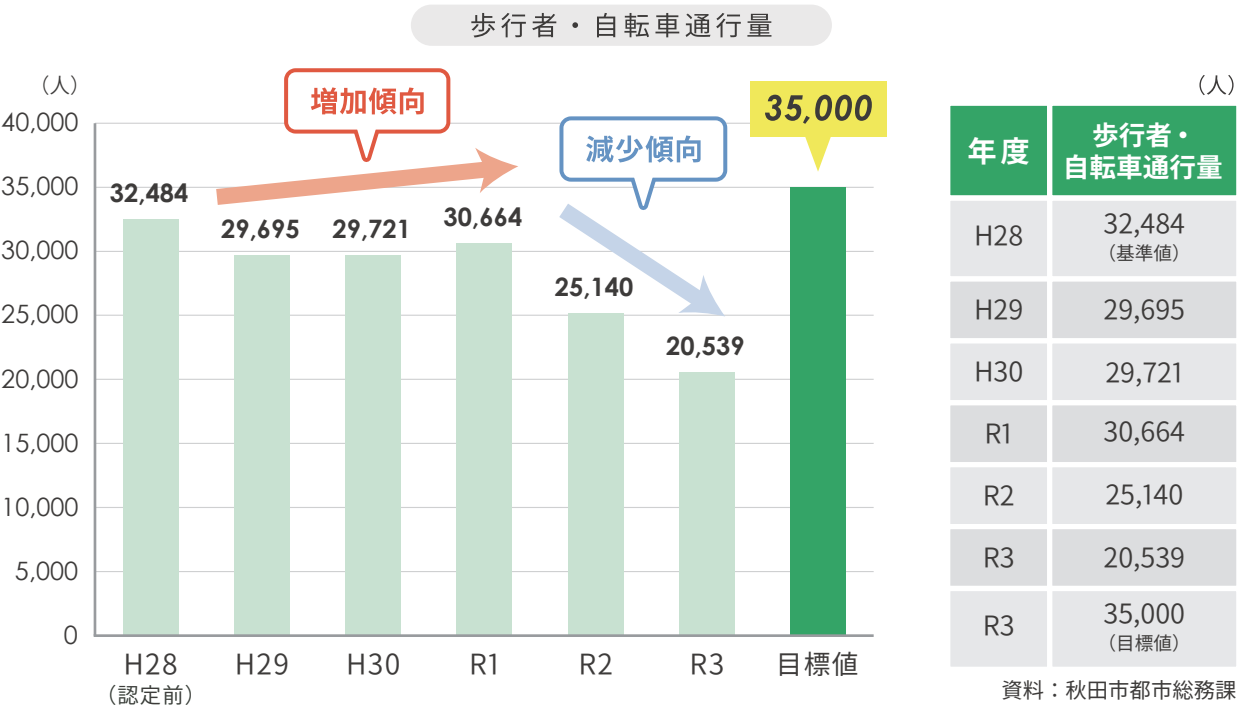
目標指標	基準値 (a)(H28)	目標値 (b)(R3)	期末値 (c)(R3)	達成率 (c/b)	増加率 ((c-a)/a)
歩行者・自転車通行量 (平日・休日の平均)	32,484人	35,000人	20,539人	59%	-37%

分析 1

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、歩行者・自転車通行量が減少した。

歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）の期末値は、基準値より大幅に減少しているが、その1つの要因として、新型コロナウイルス感染拡大の影響により外出機会が減少したことが考えられます。

コロナ以前の平成29年度から令和元年度にかけては増加傾向にあったため、感染が収束することで、第2期計画で整備されたあきた芸術劇場ミルハスや秋田市文化創造館が本来の事業効果を発現し、歩行者自転車通行量は増加するものと考えられます。



分析 2

各地点の歩行者・自転車通行量に数値の開きがあり、中心市街地全体の回遊性が低い。

地点別内訳表を見ると、期末値で比較的通行量が多いのは「フォンテ北」6,326人、「ぼぼろーど東口」6,122人、「アトリオン南」2,614人、比較的少ないのが、「ヤマハ秋田店前」548人、「キャッスルホテル南」407人、「大町公園橋」128人となっています。

秋田駅周辺から仲小路にかけて通行量が集中し、中心市街地全体の回遊性が低い傾向にあり、駅利用者が駅に近い範囲で留まっていることが考えられます。

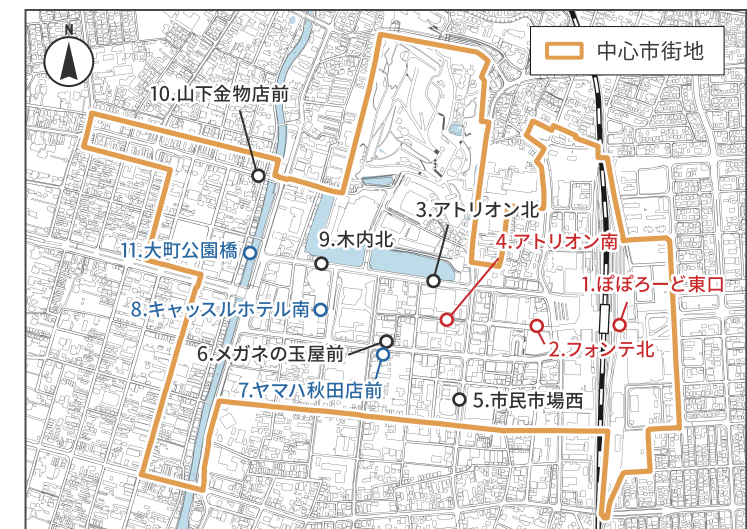
地点別内訳表

(人)

	平成28年度 (計画前年度)	平成29年度 (1年目)	平成30年度 (2年目)	令和元年度 (3年目)	令和2年度 (4年目)	令和3年度 (5年目)
1 ぼぼろーど東口	10,056	10,491	9,127	9,507	7,275	6,122
2 フォンテ北	9,635	8,325	8,574	8,398	7,838	6,326
3 アトリオン北	1,446	1,098	1,247	1,375	898	809
4 アトリオン南	4,123	3,096	4,132	4,863	3,149	2,614
5 市民市場西	1,575	1,303	1,340	1,304	1,561	984
6 メガネの玉屋前	759	613	689	668	616	663
7 ヤマハ秋田店前	913	705	679	659	634	548
8 キャッスルホテル南	978	888	964	976	590	407
9 木内北	1,407	1,499	1,437	1,455	1,298	1,115
10 山下金物店前	1,286	1,451	1,248	1,196	1,118	824
11 大町公園橋	307	228	286	265	164	128
合計	32,484	29,695	29,721	30,664	25,140	20,539

資料：秋田市都市総務課

調査地点図



※上位3箇所を赤字で、下位3箇所を青字で表示

2 芸術文化施設利用者数（1日あたり）

行きたい街

目標指標	基準値 (a)(H27)	目標値 (b)(R3)	期末値 (c)(R3)	達成率 (c/b)	増加率 ((c-a)/a)
芸術文化施設利用者数 (1日あたり)	966人/日	1,530人/日	290人/日	19%	-70%

分析 1

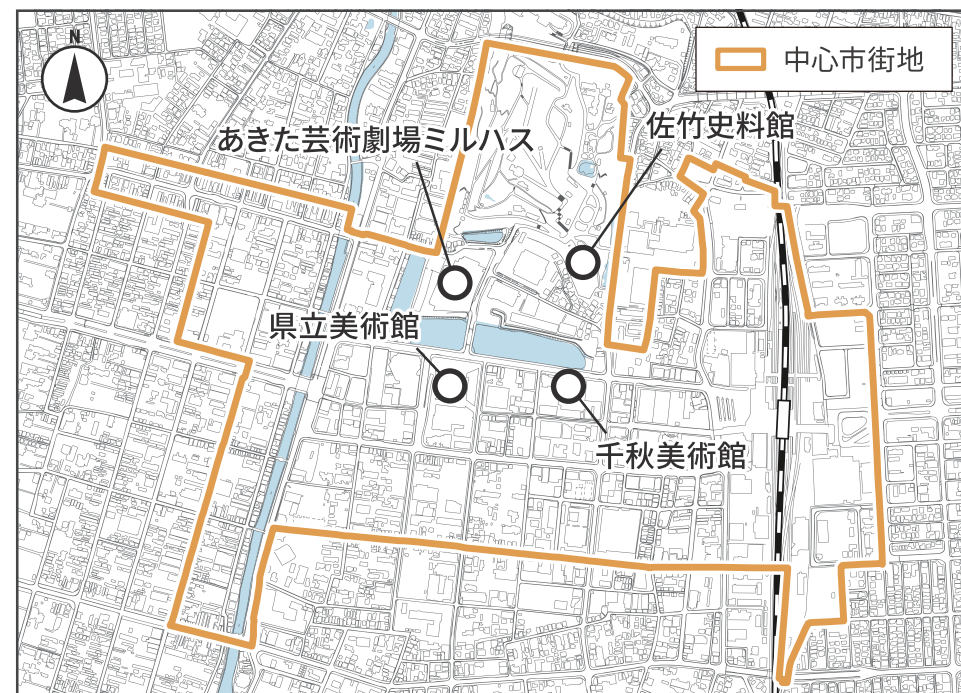
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、芸術文化施設利用者数が減少した。

新型コロナウイルス感染拡大等により、あきた芸術劇場ミルハスの工期に遅れが生じ、計画期間内の開館とならなかったことから、第2期計画策定時に見込んでいたあきた芸術劇場ミルハスの整備による増加を期末値に反映することができなかったため、達成率が低いものとなっています。

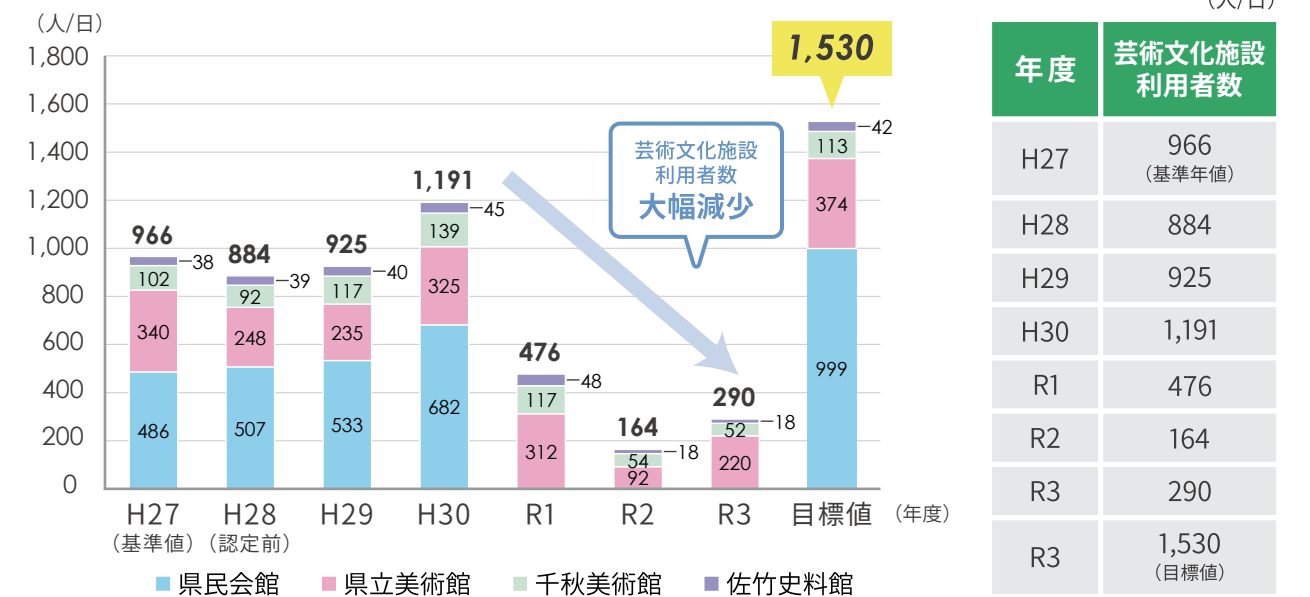
また、県立美術館、佐竹史料館、千秋美術館についても、新型コロナウイルス感染拡大による外出機会の減少により、いずれも期末値が基準値に届きませんでした。

新型コロナウイルス感染拡大が収束することで、令和4年6月にオープンしたあきた芸術劇場ミルハスなど第2期計画に位置づけた各種取組が本来の事業効果を発現し、佐竹史料館の建て替え、千秋美術館の改修などとの相乗効果で、芸術文化施設利用者数は改善すると推定されます。

調査地点図



芸術文化施設利用者数

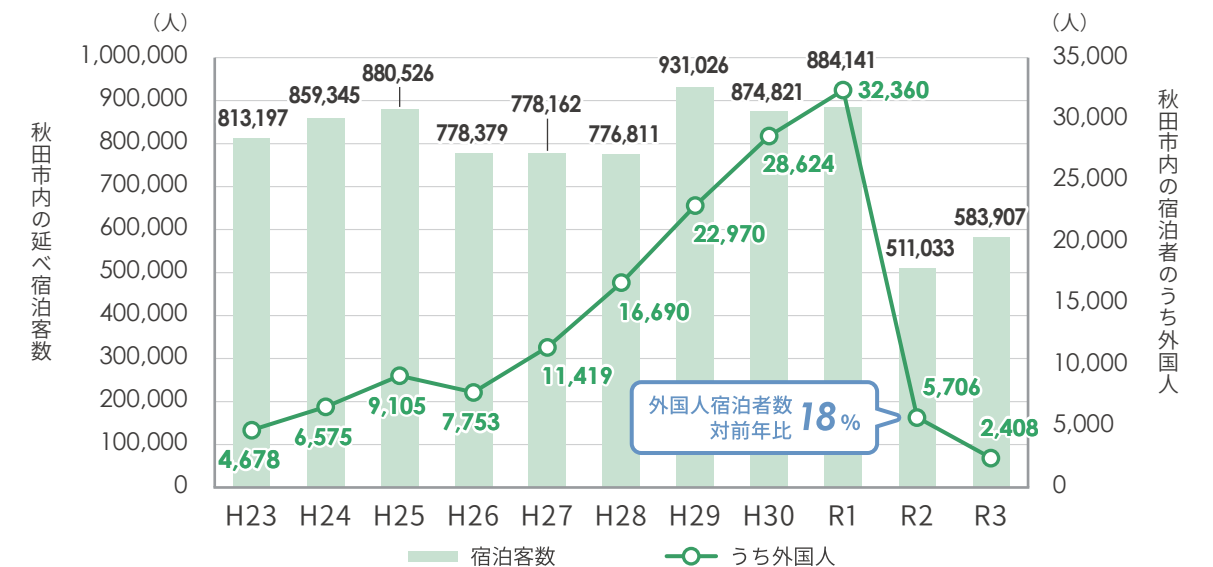


分析 2

新型コロナウイルス感染拡大が収束することにより訪日外国人による観光需要が回復することが期待される。

秋田市内の延べ宿泊者数（従業員10人以上の宿泊施設）を見ると、秋田市内の宿泊者のうち外国人数は、令和2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により対前年比18%と大幅に落ち込み、令和3年も減少しました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大以前の平成26年から令和元年まで一貫して増加傾向にありました。そのため、新型コロナウイルス感染拡大収束後は、千秋公園の四季の移ろいを感じられる遊歩道や秋田市まちなか観光案内所を拠点とした城下町でのまちあるき観光を中心に、訪日外国人による観光需要が回復することが期待されます。

秋田市内の延べ宿泊者数（従業員10人以上の宿泊施設）



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」

3 中心市街地における人口の社会増加数

住みたい街

目標指標	基準値 (a) (H24~ H28の累計)	目標値 (b) (H29~ R3の累計)	期末値 (c) (H29~ R3の累計)	達成率 (c/b)	増加率 ((c-a)/a)
中心市街地における 人口の社会増加数 (累計)	26人	240人	27人	11%	4%

分析 1

新規建設マンションへの転入により、中心市街地の人口シェアは増加傾向にある。

平成28年度から令和3年度にかけて、全市の人口が8,082人減少する中、中心市街地では173人増加し、人口シェアも増加しています。

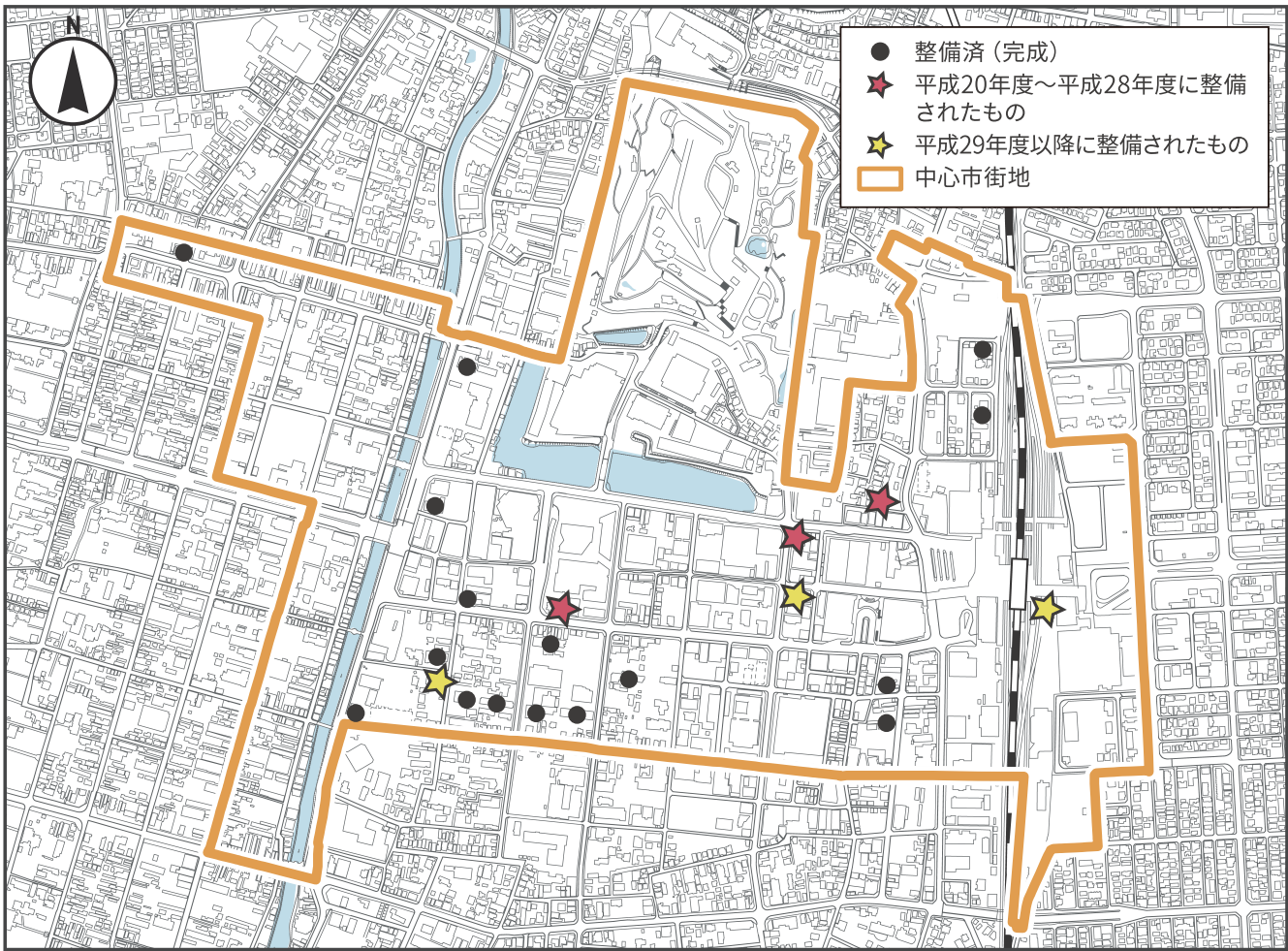
その要因は、秋田駅東口の学生マンションや中通二丁目地区優良建築物等整備事業で整備された秋田版CCRC拠点施設「クロッセ秋田」など、マンション建設に伴う中心市街地人口の社会増によるところが大きいと考えられます。また、今後も中心市街地に複数の民間マンションが完成する予定であり、中心市街地の人口シェアは更に増加するものと予測されます。

全市および中心市街地の人口推移

指標／区域		平成28年度	令和3年度	増加率
人口	中心市街地	4,083人	4,256人	+4.2%
	全市	313,668人	305,586人	▲2.6%
人口シェア		1.30%	1.39%	+0.09ポイント

資料：「国勢調査」「秋田市年齢別・地区別人口」 ※中心市街地人口：小字ごとの面積比を乗じて算出

中心市街地における7階建て以上のマンション位置図



資料：秋田市建築指導課（令和4年4月現在）

分析 2

快適で便利なまちなか居住を支える生活利便施設が不足している。

マンション建設に伴い中心市街地の人口は増加しているものの、一方で転出人口も多く見られ、第2期計画では目標値を達成することができませんでした。

令和4年4月に実施した居住者アンケート調査によると、「周辺環境への満足度」は高いものの、「不満な点」として、「日常の買物の利便性」や「まわりの道路の狭さ・一方通行」が挙げられています。また、「生活の場として欲しい機能」では、「冬でも安全に歩ける融雪歩道等」や「日常的な買い物に対応した商業施設」が上位に挙げられています。

さらに、「中心市街地に不足している専門店」は「電気店」、「食料品店」、「家具・インテリア販売店」となっています。

以上のことから、第2期計画に引き続き、定住化の促進等に向けて生活利便施設の更なる充実が望まれています。

4 商業集積促進関連制度利用件数（累計）

活力ある街

目標指標	基準値 (a) (H23~H27の累計)	目標値 (b) (H29~R3の累計)	期末値 (c) (H29~R3の累計)	達成率 (c/b)	増加率 ((c-a)/a)
商業集積促進 関連制度利用件数 (累計)	34件	50件	181件	362%	432%

分析 1

中心市街地商業集積促進事業補助制度を中心に想定以上の利用件数がある。

令和3年度事業件数内訳を見ると、中心市街地に関連する利用件数34件のうち約7割の23件を中心市街地商業集積促進事業補助制度が占めています。同制度は空き店舗等への出店にかかる改装費、宣伝広告費および賃借料の一部を補助することで、新規出店を促し、中心市街地の活性化を図るものであり、第2期計画に基づく各種事業の完了を見据えた出店意欲の高まりや不動産業者等への制度周知が進んだことが、目標値を大幅に上回った要因として考えられます。

令和3年度事業件数内訳

事業名称	令和3年度
中心市街地商業集積促進事業補助制度利用件数	23
中心市街地出店促進融資あっせん制度利用件数	7
小売業等チャレンジ支援事業利用件数	0
商工業振興奨励措置事業利用件数	4

資料：秋田市商工貿易振興課、企業立地雇用課

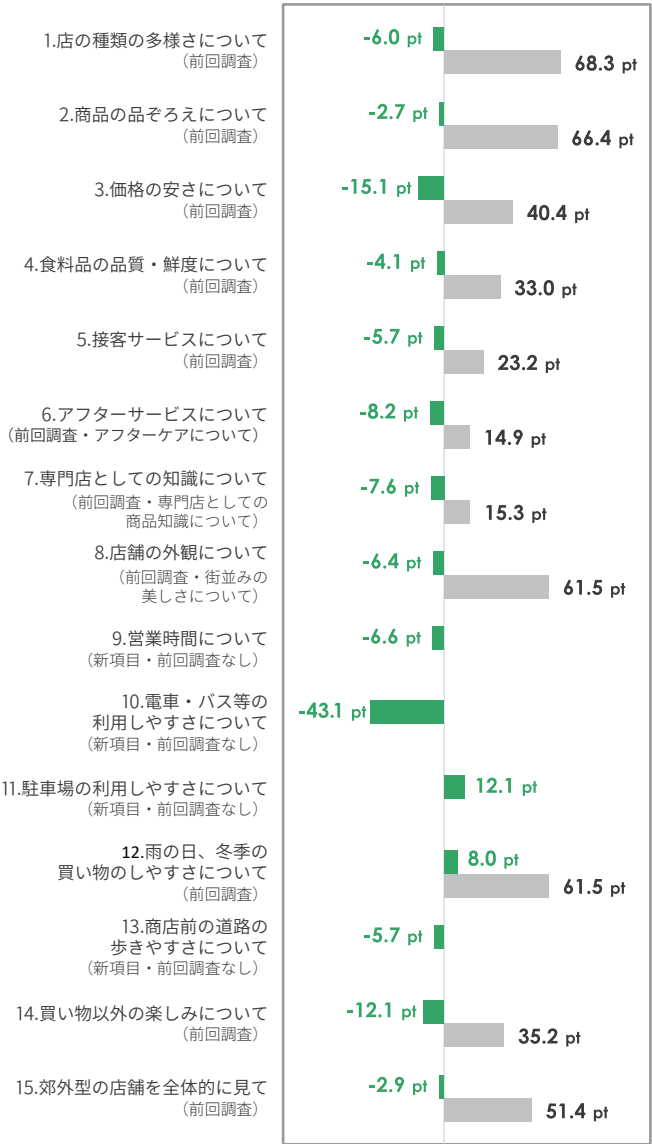
分析 2

中心市街地内外問わず市内店舗の満足度が低下している。

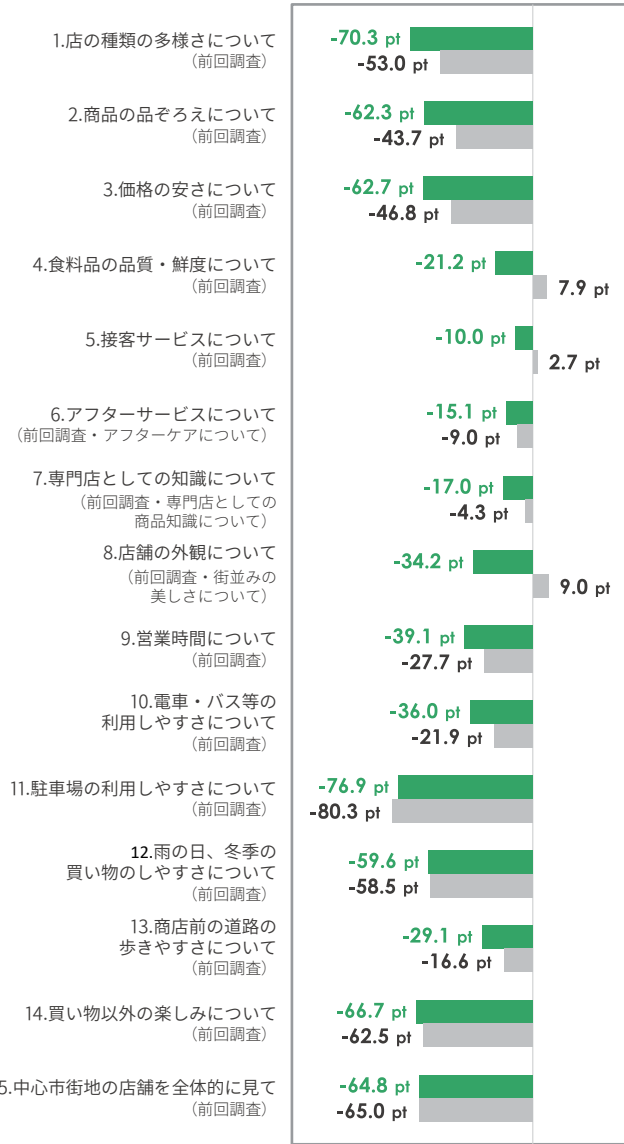
令和4年4月に実施した市民アンケート調査による「中心市街地以外的大型小売店やショッピングセンターの評価」は、平成28年2月に実施した市民アンケート調査の結果と比較して、低下しています。また、「中心市街地の店舗の評価」は、平成28年2月の調査と比較して、「中心市街地以外的大型小売店やショッピングセンターの評価」の落ち込み具合よりも緩やかではあるものの低下しており、各項目は中心市街地以外の店舗と比べ低い傾向にあります。

要因としては、新型コロナウイルス感染拡大が拍車をかけた、インターネットショッピングの普及などにより、実店舗の満足度が相対的に低下したことが考えられます。

中心市街地以外的大型小売店や
ショッピングセンターについて
以下の項目をどのように評価しますか



中心市街地の店舗について
以下の項目をどのように評価しますか



1.満足：2pt 2.やや満足：1pt 3.普通：0pt 4.やや不満：-1pt 5.不満：-2pt

■ 平成28年2月調査結果 ■ 令和4年4月調査結果

資料：市民アンケート調査結果（今回：令和4年4月実施、前回：平成28年2月実施）※各回答割合に満足度別の配点（ポイント）を乗じて算出

5 市民活動等施設利用件数

活力ある街

目標指標	基準値 (a)(H27)	目標値 (b)(R3)	期末値 (c)(R3)	達成率 (c/b)	増加率 ((c-a)/a)
市民活動等施設 利用件数	20,196 件/年	20,800 件/年	17,082 件/年	82 %	-15 %

分析 1

新型コロナウイルス感染拡大による外出機会減少の影響により、市民活動等施設利用件数が減少した。

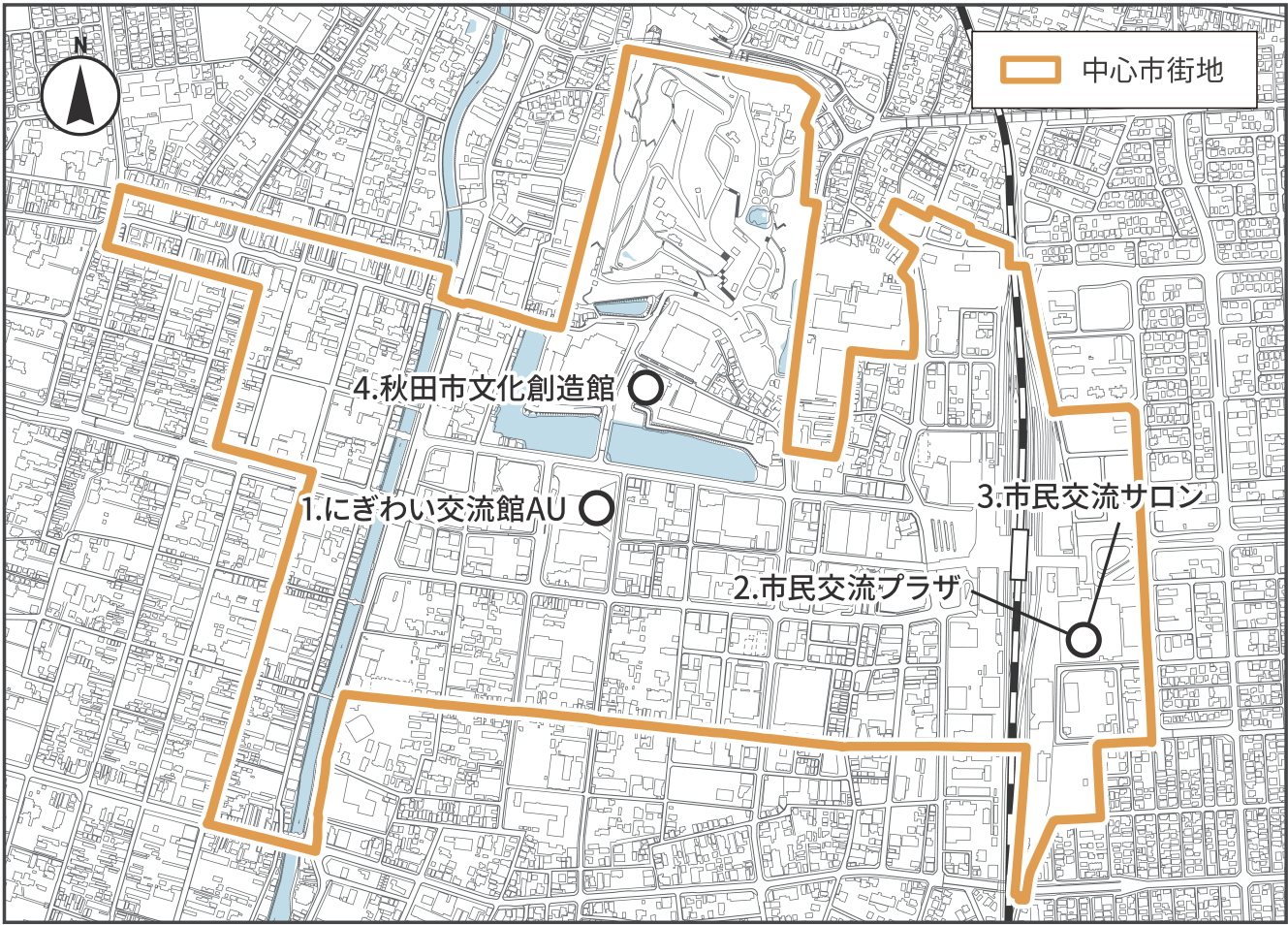
市民活動等施設利用件数の期末値は17,082件であり、基準値より大幅に減少していますが、その要因は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による外出機会の減少により市民活動が減少したことが考えられます。

分析 2

秋田市文化創造館の利用件数は目標値を大きく上回った。

秋田市文化創造館は、目標値を類似施設の利用実績から524件と設定していましたが、期末値では1,514件となっており、利用件数は目標を大きく上回りました。市民が利用しやすい立地であることに加え、様々なイベントやプロジェクトを開催したことが成功の要因と考えられます。新型コロナウイルス感染拡大の中での目標値を上回る結果であるため、感染が収束することで、更なる増加が期待されます。

調査地点図



市民活動等施設利用件数

	平成27年度 (基準値)	平成28年度 (計画前年度)	平成29年度 (1年目)	平成30年度 (2年目)	令和元年度 (3年目)	令和2年度 (4年目)	令和3年度 (5年目)	目標値
1 にぎわい交流館AU	13,620	14,096	14,230	13,518	12,993	10,601	11,173	13,620
2 市民交流プラザ	5,991	6,339	6,586	6,404	5,970	3,413	3,831	5,991
3 市民交流サロン	585	520	637	611	497	511	564	700
4 秋田市文化創造館	0	0	0	0	0	14	1,514	524
合計	20,196	20,955	21,453	20,533	19,460	14,539	17,082	20,800

資料：秋田市観光振興課、秋田市民交流プラザ管理室、中央市民サービスセンター、秋田市文化振興課

第2期計画の目標指標の達成状況のとりまとめ

✓ 活性化の目標

行きたい街
市内外から来訪する 多くの交流人口が行き交うまち
住みたい街
愛着と誇りを持って 多くの市民が暮らすまち
活力ある街
新たな市民文化を育む 多世代が交流する活力あるまち

✓ 事業の進捗状況

第2期計画に掲載した66事業のうち、65事業を実施、1事業が未実施であり、おおむね計画どおりに進捗した。

✓ 評価指標の達成状況

「中心市街地における人口の社会増加数」、「商業集積促進関連制度利用件数」、の目標指標は基準値より改善したが、「歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）」、「芸術文化施設利用者数」、「市民活動等施設利用件数」は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、基準値より減少した。

✓ 目標ごとの評価

行きたい街	新型コロナウイルス感染拡大の影響等で通行量、芸術文化施設利用者数が減少した。来街者の回遊性が低い。秋田市内の宿泊者のうち外国人数も落ち込んだ。
住みたい街	マンションへの転入等により、定住人口は増加傾向にあるが、快適で便利なまちなか居住を支える生活利便施設が不足している。
活力ある街	中心市街地商業集積促進補助制度を中心に、活性化に必要な制度の認知が進んでいるが、店舗の魅力や市民活動等施設利用件数に課題が残る。

✓ 総括

第2期計画に位置づけられた各種取組により中心市街地において活性化の兆しはみられるものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた目標指標の達成状況を考慮すると、今後も継続して活性化に取り組んでいく必要がある。

評価指標と 目標値・実績値	達成 状況
歩行者・自転車通行量 (平日・休日の平均) 目標 35,000 人 → R3 20,539 人	×
芸術文化施設利用者数 (一日あたり) 目標 1,530 人 → R3 290 人	×
中心市街地における 人口の社会増加数(累計) 目標 240 人 → H29~R3の累計 27 人	△
商業集積促進関連制度 利用件数(累計) 目標 50 件 → H29~R3の累計 181 件	○
市民活動等施設利用件数 目標 20,800 件 → R3 17,082 件	×

○達成、△未達成(改善)、×未達成

中心市街地に関する各種統計データから見た整理、市民ニーズから見た整理、第2期計画の目標指標の達成状況から見た整理の3つの視点から、中心市街地の現況をまとめ、にぎわい、人々の居住、事業者・市民活動に着目し再整理しました。

視点1...統計データから見た整理

- ・秋田市全体の人口は減少傾向にあるものの、中心市街地の人口は増加傾向にある。
- ・空き店舗が継続的に発生している。
- ・中心市街地の観光入込客数は新型コロナウイルス感染拡大の影響により大幅に減少している。
- ・中心市街地には依然として大規模低未利用地が存在している。
- ・駅前商業地の地価が令和元年に27年ぶりに上昇に転じた。

視点2...市民ニーズから見た整理

- ・来訪頻度は「月に1~2回」「上記未満／ほとんど行かない」といった低頻度が約7割ほどを占めている。
- ・市民からは今後の中心市街地活性化の方向性として、「周辺からの交通利便性」「集客力のある施設整備」「商店街の店舗数を増やす」などの項目が上位に挙げられた。
- ・商店主からは今後の中心市街地活性化の方向性として、「商店街の店舗数を増やす」「中心市街地に事業所を誘致」などの項目が上位に挙げられた。
- ・居住者の周辺環境の満足度は「満足」「まあまあ満足」合わせて約85%と高い満足度を示していた。
- ・低未利用地所有者の活用方針として「当分現状のままにしておきたい」が約85%を占めていた。
- ・平日、休日どちらも70%以上の中心市街地来訪者が更なる活性化を求めている。

視点3...第2期計画の目標指標の達成状況から見た整理

- 歩行者・自転車通行量(未達成)**
 - ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、歩行者・自転車通行量が減少した。
 - ・各地点で歩行者・自転車通行量に数値の開きがあり、中心市街地全体の回遊性が低い。
- 芸術文化施設利用者数(未達成)**
 - ・新型コロナウイルス感染拡大の影響、芸術文化施設利用者数が減少した。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大が収束することにより訪日外国人による観光需要が回復することが期待される。
- 中心市街地における人口の社会増加数(未達成(基準値より改善))**
 - ・新規建設マンションへの転入により、中心市街地の人口シェアは増加傾向にある。
 - ・快適で便利なまちなか居住を支える生活利便施設が不足している。
- 商業集積促進関連制度利用件数(達成)**
 - ・中心市街地商業集積促進事業補助制度を中心に想定以上の利用件数がある。
 - ・中心市街地内外を問わず市内店舗の満足度が低下している。
- 市民活動等施設利用件数(未達成)**
 - ・新型コロナウイルス感染拡大による外出機会減少の影響により、市民活動等施設利用件数が減少した。
 - ・秋田市文化創造館の利用件数は目標値を大きく上回った。

にぎわい、人々の居住、事業者・市民活動に着目し再整理

にぎわいに着目!!

現況 1

- ・まちなかにぎわいが新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け低下している。
- ・第1期、第2期計画を通して、にぎわい創出に寄与する各種施設が整備されてきている。
- ・中心市街地全体の回遊性が低い。
- ・交通利便性の向上が求められている。

人々の居住に着目!!

現況 2

- ・民間マンションの建設により居住人口は増加傾向にある。
- ・居住者は、日常的な買物に対応した商業施設や安全、快適で便利な居住環境の整備を望んでいる。

事業者・市民活動に着目!!

現況 3

- ・中心市街地内外問わず、店舗の満足度が低下している。
- ・継続的に空き店舗が発生し、大規模な空き地・空きビルが存在している。
- ・市民活動の活発化への基盤が形成されてきている。

中心市街地活性化の課題

中心市街地活性化の課題

第2期計画では、「行きたいまち」、「住みたいまち」、「活力あるまち」の3つの目標を設定し、官民一体となって中心市街地の活性化に向けた各種取組を実施してきました。

その結果、中心市街地のにぎわい拠点となる「あきた芸術劇場ミルハス」等の施設整備が実現し、新たな人の流れが生まれつつありますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響による外出機会の減少などにより、歩行者・自転車通行量など第2期計画で達成できなかった目標指標があるなど、引き続き課題が残されています。

また、秋田市人口ビジョンにおいて、今後本市の人口が減少することが予測される中、中心市街地は、本市をイメージする「顔」として、拠点施設を中心にその周辺との一体的なにぎわいの創出を進め、市民や訪問者が愛着を持てる多機能空間として活性化を図る必要があります。

以上の基本的認識を踏まえ、第2章でにぎわい、人々の居住、事業者・市民活動に着目して整理した中心市街地の現状から、中心市街地の活性化に向けた課題を抽出します。

現況 1

- ・まちのにぎわいが新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け低下している。
- ・第1期、第2期計画を通して、にぎわい創出に寄与する各種施設が整備されてきている。
- ・中心市街地全体の回遊性が低い。
- ・交通利便性の向上が求められている。

課題 1

既存施設を活かした
来街者増加と
回遊性の向上

現況 2

- ・民間マンションの建設により居住人口は増加傾向にある。
- ・居住者は、日常的な買物に対応した商業施設や安全、快適で便利な居住環境の整備を望んでいる。

課題 2

居住環境の向上
による住みやすい
まちづくり

現況 3

- ・中心市街地内外問わず、店舗の満足度が低下している。
- ・継続的に空き店舗が発生し、大規模な空き地・空きビルが存在している。
- ・市民活動の活発化への基盤が形成されてきている。

課題 3

商店街の魅力向上と
中心市街地活性化の
担い手の育成

にぎわいに着目した課題

課題 1 既存施設を活かした来街者増加と回遊性の向上

中心市街地のまちのにぎわいが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け低下していますが、第1期、第2期計画を通して、「エリアなかいち」、「あきた芸術劇場ミルハス」を中心に各種ハードの整備が進み、今後、「佐竹史料館の建て替え」や「千秋美術館の改修」など、既存施設のリニューアルを実施する予定となっています。

これらの既存施設と官民の連携による各種ソフト事業との相乗効果、中心市街地の交通利便性や歩きたくなる歩行者環境の向上により、回遊性を高め、にぎわいを波及させていくことが課題となります。

人々の居住に着目した課題

課題 2 居住環境の向上による住みやすいまちづくり

中心市街地居住人口は民間マンションの建設により増加することが予測される一方、中心市街地居住者からは、日常的な買物に対応した商業施設やバリアフリーに配慮した安全・快適で便利な居住環境のニーズがあげられています。

このような状況を踏まえ、今後、まちなか居住の一層の推進に向けて、空き家・空き室等の既存ストックの活用促進や民間マンション整備への支援等により、第2期計画に引き続き、住宅などの転入人口の受け皿整備とともに、まちなか居住における日常生活の利便性向上とまちの魅力創出により、居住人口の定着を促進することが課題となります。

事業者・市民活動に着目した課題

課題 3 商店街の魅力向上と中心市街地活性化の担い手の育成

市民アンケート調査の結果を見ると、中心市街地内外問わず、市内店舗の満足度が低下していますが、「商業機能」は中心市街地を構成する重要な要素であることから、中心市街地店舗の魅力向上、継続的に発生している空き店舗等の創業などへの有効活用が求められています。

また、中心市街地のにぎわい創出と活力向上を図る上で市民を巻き込んだ取組が重要となることから、芸術文化ゾーンの「にぎわい交流館AU」や「秋田市文化創造館」、秋田駅東口の「秋田拠点センターALVE」を中心に、市民活動を促進し、第1期、第2期計画を通してにぎわい創出の基盤が形成されてきている中心市街地を活性化するための、担い手の育成が重要となります。

中心市街地活性化の 基本コンセプト・将来像（イメージ）

中心市街地活性化の基本コンセプト

中心市街地活性化の基本コンセプトを、にぎわいにあふれ、芸術文化と触れあえる、集いや楽しみの場として、あるいは居住の場や創業の場、まちづくりなどに関する市民活動の場として、様々な場面で今以上に選ばれる中心市街地となることを目指し、「集い・楽しみ・住み・創る、選ばれるまち。」と設定しました。

中心市街地活性化の将来像（イメージ）



中心市街地活性化の基本コンセプト

集い・楽しみ・住み・創る、選ばれるまち。
～城下町ルネサンスの継承～

また、今後は第2期計画までに整備した施設を活用して活性化を図っていくことになるため、第2期計画の基本コンセプトを踏まえ、サブテーマを「城下町ルネサンスの継承」としました。

※第2期計画の基本コンセプト：

「千秋公園（久保田城跡）と連携した城下町ルネサンス（中心市街地再生）～新たな市民文化を育む多世代が交流するにぎわい拠点の形成～」

中心市街地活性化の目標

5つの目標設定

基本コンセプトである「集い・楽しみ・住み・創る、選ばれるまち。」の実現に向けて、中心市街地の現況、抱えている課題から、中心市街地活性化のための5つの目標を設定しました。

課題1

既存施設を活かした
来街者増加と
回遊性の向上

課題2

居住環境の向上
による住みやすい
まちづくり

課題3

商店街の魅力向上と
中心市街地活性化の
担い手の育成

目標01 人々が集いにぎわうまち

▶ P.33-34

目標02 芸術文化が香るまち

▶ P.35-36

目標03 暮らしたくなるまち

▶ P.37-38

目標04 チャレンジできるまち

▶ P.39-40

目標05 市民がつくるまち

▶ P.41-42

目標内容



- ① 目標名称 ② これまでの取組 ③ 今後の取組方針 ④ 今後の主な取組
⑤ 期待される効果とそのイメージ図 ⑥ 目標指標と目標値 ⑦ フォローアップ



人々が集いにぎわうまち

これまでの取組

- 第1期、第2期計画を通して、エリアなかいちの整備や秋田駅西口駅前広場（芝生広場）整備など、官民ともにさまざまな施設整備を実施してきました。
- また、各種イベントを実施し、中心市街地の活性化に取り組んでいます。

なかいちウィンターパーク



芝生広場でのイベント



今後の取組方針

各種イベントなどによるにぎわいの波及

今後の主な取組

広小路バザール

中心市街地に定期的なにぎわいを形成するとともに県内事業者の中心市街地への出店機会を創出することを目的とし、歩行者天国の広小路にテントマーケットなどが並びます。



まるっと秋田博

秋田県内の豊かな伝統芸能と食文化、盛り上がりを見せる各種トップスポーツなどを集結したイベントを開催し、中心市街地のにぎわいを創出するとともに、県内外からの観光誘客に取り組むことにより、交流人口の拡大が期待されます。



※写真は「これが秋田だ！食と芸能大祭典」時のもの

これらの事業の推進によって、下記のような効果が期待されます！

- ✓ 市民や観光・ビジネスなどで訪れるさまざまな人が中心市街地へ訪れる機会・目的を創出します。
- ✓ イベントに訪れた人々が会場のみならず中心市街地を周遊することで新たな魅力を発見します。
- ✓ イベント時以外においても中心市街地を訪れるリピーターを獲得し、中心市街地への来訪者の増加が期待されます。



目標指標と目標値

目標指標

中心市街地の歩行者と自転車の通行量（平日・休日の平均）を目標値とします。

目標値の設定

- 目標値はR9年度の歩行者・自転車通行量とします。
- 目標値の設定は、H29年度から新型コロナウイルス感染拡大前のR元年度までの傾向と、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けているR3年度からR4年度の傾向を基に設定しています。
- また、あきた芸術劇場ミルハスや秋田市文化創造館など新たな施設整備に伴い、「中土橋」の通行量も組み込んだうえで目標値を設定しています。

目標指標	現況（R4）	目標値（R9）
歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）	24,738人	33,300人

フォローアップ

- 最終目標値はR9年度の33,300人とし、毎年、歩行者・自転車通行量の調査を行い、進捗状況を確認します。
- 進捗状況に応じて、取組の見直しなどを行います。

芸術文化が香るまち

これまでの取組

- 芸術文化ゾーンに、秋田県と秋田市が共同であきた芸術劇場ミルハスを整備し、令和4年6月に開館しました。同ゾーンを中心に、「芸術文化の香り高いまちづくり」を目指し、各施設で情報発信やイベントなどに取り組んでいます。

あきた芸術劇場ミルハス



アキタミュージックフェスティバル (Akita Music Festival)



今後の取組方針

芸術文化と身近にふれあえる環境づくり

今後の主な取組

佐竹史料館改築事業

老朽化が進んだ現在の建物を取り壊し、現地での建て替えを行う事業です。本事業によって、秋田藩の歴史を詳しく、楽しく伝える施設、市民の郷土学習を支援するとともに人材育成に寄与する施設、貴重な歴史遺産を後世に継承しながら、地域活性化に寄与する施設、誰もが気軽に訪れ楽しむことができる施設を目指します。



芸術文化のまちづくり推進事業

市民の芸術文化の発表・鑑賞の機会の拡大および担い手の確保・育成による市民文化の振興、秋田ならではの芸術文化事業によるにぎわいの創出の好循環を図り、本市文化の継承・創造による芸術文化のまちづくりを推進します。



これらの事業の推進によって、下記のような効果が期待されます！

- ✓ 秋田市の歴史・文化を活かした都市型観光により交流人口の拡大が期待されます。
- ✓ 市のみならず、県内・県外の芸術関係者が目標とする発表の場を提供することにより、市民が芸術に触れる機会を拡充することができます。
- ✓ だれもが気軽に秋田市の芸術や文化に触れることができ、豊かな心を育み、秋田市に愛着を持つ人が増加することが期待されます。



目標指標と目標値

目標指標

芸術文化施設の利用者数を目標値とします。

※芸術文化施設は、あきた芸術劇場ミルハス、県立美術館、千秋美術館、佐竹史料館を対象

目標値の設定

- 目標値はR9年度の芸術文化施設の利用者数とします。
- 県立美術館、千秋美術館、佐竹史料館は独自目標値、あきた芸術劇場ミルハスはR4年度の実績から目標値を算出しております。

目標指標	現況 (R4)	目標値 (R9)
芸術文化施設利用者数 (1日あたり)	1,782 人/日	2,300 人/日

フォローアップ

- 最終目標値はR9年度の2,300人/日とし、各施設の利用者数について毎年フォローアップを行い、進捗状況を確認します。
- 進捗状況に応じて、取組の見直しなどを行います。

暮らしたくなるまち

これまでの取組

- 「秋田版CCRC事業」により、地域社会との連携や医療ケアなどの機能を有した集合住宅「クロッセ秋田」が完成したことが呼び水となり、中心市街地周辺に複数のマンション建設が予定されています。

千秋久保田町線



クロッセ秋田



今後の取組方針

暮らしのための環境整備

今後の主な取組

秋田市住宅リフォーム支援事業

住宅リフォームへの支援により居住の継続を図るとともに、マンション等の空き室の活用促進と移住促進による定住人口の増加を図る事業です。中心市街地においては他地区よりも有利な支援を行っています。



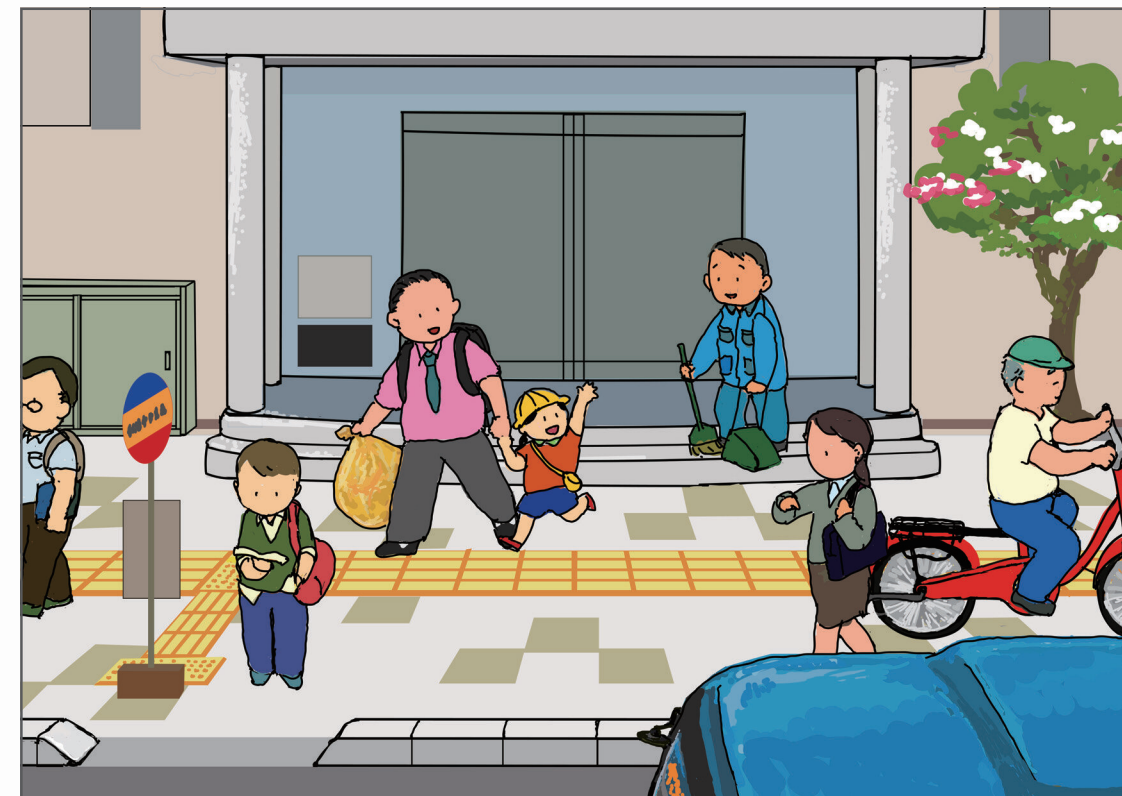
千秋久保田町地区優良建築物等整備事業

中心市街地において、適正に管理されことなく長期間にわたり空きビルとなっていた低未利用地に、街なか居住の受け皿となるマンションを整備する事業です。土地の利用の共同化・高度化や市街地環境の向上が事業効果として見込まれます。



これらの事業の推進によって、下記のような効果が期待されます！

- ✓ リフォーム等により既存の住宅を有効活用し、中心市街地の居住人口の増加が期待されます。
- ✓ 新たな道路網の整備や土地利用の高度化により、中心市街地への居住の促進が図られます。



目標指標と目標値

目標指標

市内総人口のうち中心市街地人口が占める割合を目標値とします。

目標値の設定

- 目標値は中心市街地におけるR9年度の市内総人口のうち中心市街地人口が占める割合とします。
- 現在の割合は1.4%であり、第1期計画以降のH21～R4年度の人口変動や秋田市住宅リフォーム支援事業、今後のマンション建設などを踏まえ、目標値を設定しています。

目標指標	現況（R4）	目標値（R9）
市内総人口のうち中心市街地人口が占める割合	1.4%	1.9%

フォローアップ

- 最終目標値はR9年度の1.9%とし、秋田市全域および中心市街地における人口の増減について毎年フォローアップを行い、進捗状況を確認します。
- 進捗状況に応じて、取組の見直しなどを行います。

チャレンジできるまち

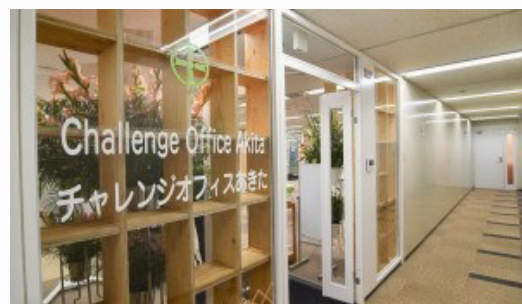
これまでの取組

- 空き店舗等への出店にかかる費用等を補助する中心市街地商業集積促進補助制度の利用件数が順調に推移しており、中心市街地における出店意欲の高まりが見られます。

商店街の街並み



チャレンジオフィスあきた（外観）



今後の取組方針

商店街等の魅力向上と活性化への支援

今後の主な取組

中心市街地等空き店舗対策事業

中心市街地への商業集積を促進し、空き店舗および空きテナントを解消することで更なる中心市街地のにぎわい創出を目指す事業です。



チャレンジオフィスあきたの運営

事業経験豊富な事業アドバイスのプロが常駐し、事業成功へのプロセスの支援や事業に必要な知識、ノウハウなどを幅広く提供する創業支援施設であるチャレンジオフィスあきたの運営を行う事業です。



これらの事業の推進によって、下記のような効果が期待されます！

- ✓ 空き店舗や空きテナントが減少することで商店街の活性化が期待されます。
- ✓ これまでの商店主に加え、新たにチャレンジする外部からの商店主・事業主が増加します。
- ✓ 既存の商店街と新たなチャレンジの場が融合し、個性的で魅力あふれる商店街になることが期待されます。



目標指標と目標値

目標指標

商業集積促進関連制度の利用件数を目標値とします。

目標値の設定

- 目標値はR5～R9年度の商業集積促進関連制度の利用件数の累計とします。
- 第2期計画において、目標値を大幅に上回った実績を維持することとし、目標値を設定します。

目標指標	現況 (H29～R3)	目標値 (R5～R9)
商業集積促進関連制度の利用件数 (累計)	181件	181件

フォローアップ

- 最終目標値はR5～R9年度累計の181件とし、制度利用件数について毎年フォローアップを行い、進捗状況を確認します。
- 進捗状況に応じて、取組の見直しなどを行います。

市民がつくるまち

これまでの取組

- 秋田拠点センターALVE、にぎわい交流館AU、秋田市文化創造館を中心に、市民活動の場を提供しています。芸術文化を切り口に、将来のまちづくりを見据えたソフトやネットワークづくり等に継続的に取り組んでいく文化創造プロジェクトが令和3年3月に開館した秋田市文化創造館を拠点に行われています。

秋田市文化創造館



市民交流サロンの様子



今後の取組方針

まちに関わりまちを楽しむひとづくり

今後の主な取組

文化創造プロジェクト

市民協働による文化創造のまちの実現に向け、秋田市文化創造館を拠点に、まちに関わり、まちを楽しむ市民の活動の創出や、人と人のつながりを生み出すなど、芸術文化を切り口に、将来のまちづくりを見据えたソフトやネットワークづくり等の継続的な取組を実施する事業です。



市民協働・市民活動支援事業

秋田拠点センターALVE内の市民交流サロンにおいて、市民活動に係る各種講座の開催や情報提供、市民活動支援アドバイザーによる相談業務を行う事業です。



これらの事業の推進によって、下記のような効果が期待されます！

- ✓ まちに集まる人々が、主体的に楽しむことができる環境が形成されます。
- ✓ 市民が新たな活動を主体的に実施する場が提供されます。
- ✓ まちへのさまざまな関わり方、さまざまな人と人とのつながりが生まれ、中心市街地のにぎわい向上が期待されます。
- ✓ 市民活動による日常的なにぎわいの創出が期待されます。



目標指標と目標値

目標指標

市民活動等における施設利用の件数を目標値とします。

※対象施設は、にぎわい交流館AU、市民交流プラザ、市民交流サロン、秋田市文化創造館

目標値の設定

- 目標値はR9年度の市民活動等における施設利用の件数とします。
- 新型コロナウイルス感染拡大前のR元年度の水準まで回復することを目指します。

目標指標	現況 (R3)	目標値 (R9)
市民活動等施設利用件数	17,082 件/年	19,700 件/年

フォローアップ

- 最終目標値はR9年度の19,700件/年とし、各施設の利用件数について毎年モニタリングを行い、進捗状況を確認します。
- 進捗状況に応じて、取組の見直しなどを行います。

目標値の算出

(1) 歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）

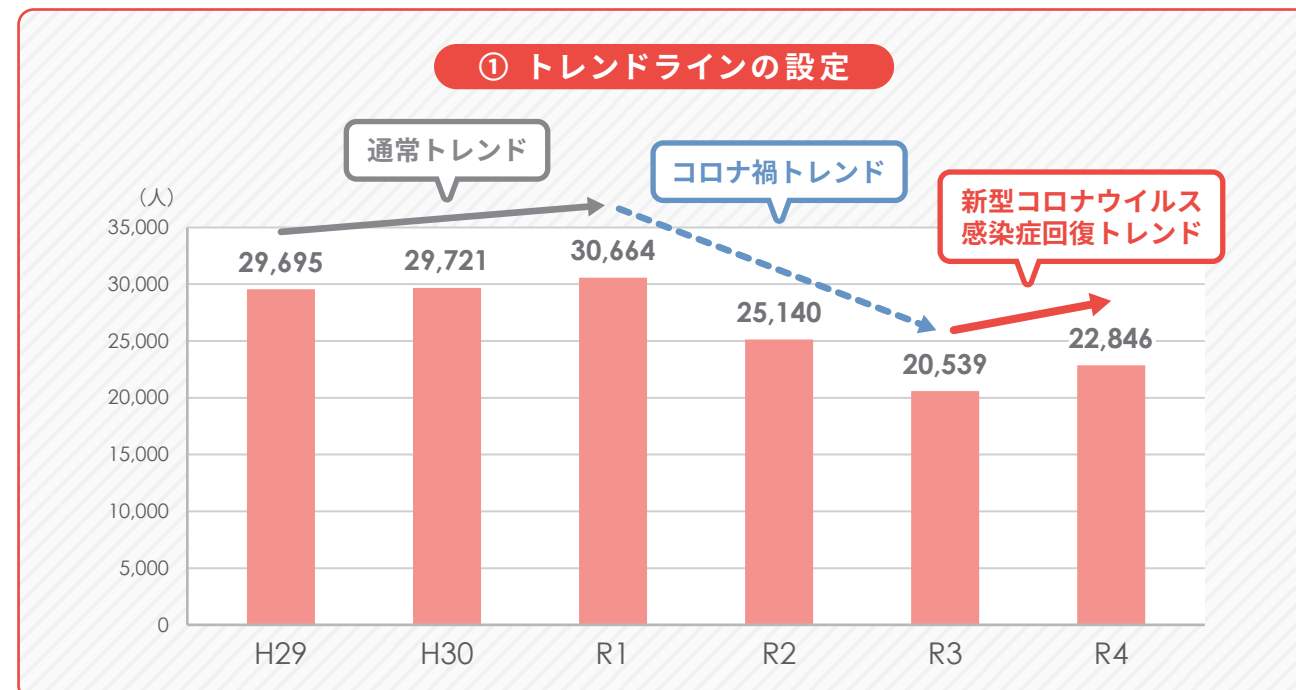
算出の考え方

- 対象は経年的に歩行者・自転車通行量調査を行なっている12箇所。
- 令和3年度調査までは、11箇所を調査していたが、あきた芸術劇場ミルハスや秋田市文化創造館など芸術文化ゾーンに新たな施設が整備されたため、歩行者・自転車通行量の増加が見込まれる「中土橋」を令和4年度調査から追加。
- 令和3年度から令和4年度は歩行者・自転車通行量は回復傾向にあり、この傾向を「新型コロナウイルス感染症回復トレンド」とする。(11箇所(中土橋を除く))
- 平成29年度から令和元年度にかけても、緩やかに歩行者・自転車通行量は増加傾向にあり、この傾向を「通常トレンド」とする。(11箇所(中土橋を除く))

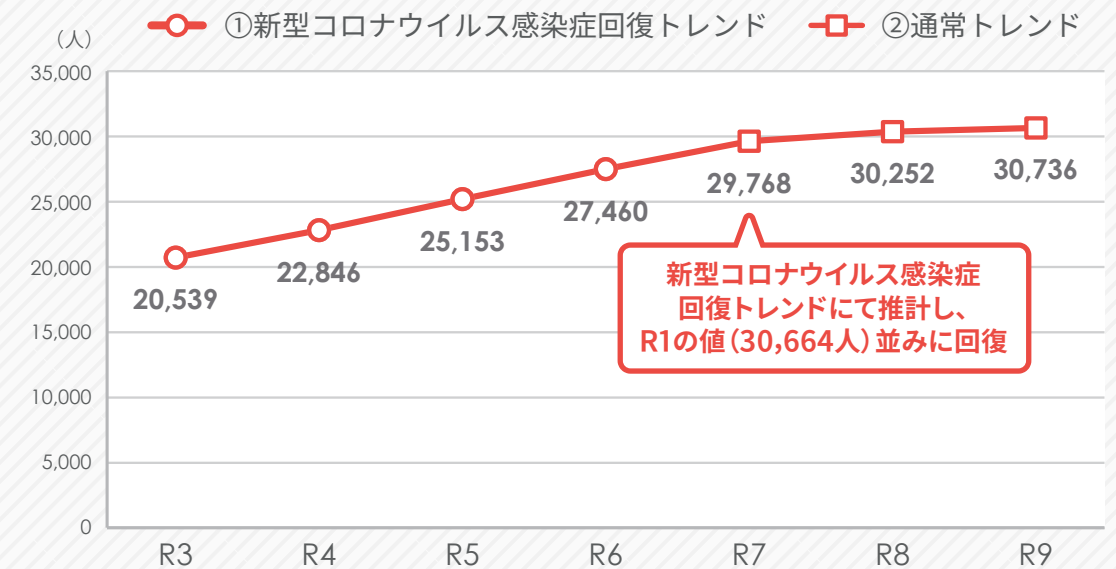
算出方法

- ① 経年的に調査を行なっている11箇所(中土橋を除く)について、令和3年度から令和4年度にかけての回復傾向を近似直線により「新型コロナウイルス感染症回復トレンド」と設定。さらに、平成29年度から令和元年度にかけての緩やかな増加傾向についても近似直線により「通常トレンド」と設定。
- ② ①から、令和9年度の値を算出。
- ③ 「中土橋」については、他箇所の令和4年度から令和9年度の伸び率を掛けて、令和9年度の値を算出。
- ④ ②と③の結果を足し合わせて、目標値を設定。

算出結果



②トレンドラインによる推計値(中土橋以外)



※新型コロナウイルス感染症回復トレンド上で、最もR1の値(30,664人)に近い値に達することにより、感染拡大前の状況に回復することとし、算出した。

③中土橋の目標値設定

$$\text{R4からR9の伸び率} \quad 30,736人 \div 22,846人 = 1.345$$

$$\text{R9の中土橋の歩行者・自転車通行量} \quad 1,892人 \times 1.345 = 2,545人$$

(R4実績値×伸び率)

④目標値

$$\text{目標値} \quad 30,736人 + 2,545人 = 33,281人 \div 33,300人$$

※各年の平均値は、(平日通行量×5+休日通行量×2)÷7で算出

※各年7月後半の休日おそびその直後の平日において計測

(2) 芸術文化施設利用者数（1日あたり）

算出の考え方

- 対象は「県立美術館」、「千秋美術館」、「佐竹史料館」、「あきた芸術劇場ミルハス」の4施設。
- 県立美術館は、独自目標値（110,000人/年）を利用。
- 千秋美術館は、改修後の独自目標値（50,000人/年）を利用。
- 佐竹史料館は、建て替え後の独自目標値（48,000人/年）を利用。
- あきた芸術劇場ミルハスは、グランドオープン直後で利用者が好調であった令和4年10月実績値を利用。（令和9年度の目標として、好調であった令和4年10月実績値ベースの利用者数を指す）
- 現況値については、各施設の令和4年度の下記実績から算出。
（あきた芸術劇場ミルハス：R4.6.1～R4.12.31、県立美術館：R4.4.1～R4.12.31、佐竹史料館：R4.4.1～R4.6.30、千秋美術館：R4.4.1～R4.6.12）

算出方法

- ① 県立美術館、千秋美術館、佐竹史料館については、それぞれ各施設の目標値を採用。
（県立美術館110,000人/年、千秋美術館50,000人/年、佐竹史料館48,000人/年）
- ② あきた芸術劇場ミルハスは、令和4年10月の入館者数実績値を基に、秋田市文化会館の平成29年度、30年度（コロナ禍以前の数値を採用）の月別の利用傾向から年間利用者数を推計。
- ③ ①と②を足し合わせ、365日で割り1日あたりの目標値を設定。

算出結果

① 県立美術館、千秋美術館、佐竹史料館の目標値（人/年）

	目標値	備考
県立美術館	110,000	独自目標
千秋美術館	50,000	改修後の目標
佐竹史料館	48,000	建て替え後の目標

② あきた芸術劇場ミルハス

■ グランドオープン後の10月～12月の入館者数実績値

	R4.10	R4.11	R4.12
実績値	79,354	71,775	35,353

■ 秋田市文化会館の貸し施設の利用実績（月間の利用傾向）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
H29年度	26,141	24,473	30,654	36,387	31,234	40,194
H30年度	24,225	23,989	39,684	47,282	38,350	51,686
平均	25,183	24,231	35,169	41,835	34,792	45,940
比率（対10月）	48%	46%	67%	80%	67%	88%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H29年度	52,863	43,108	24,556	21,490	24,837	25,336
H30年度	51,516	46,920	31,743	26,738	29,068	32,013
平均	52,190	45,014	28,150	24,114	26,953	28,675
比率（対10月）	100%	86%	54%	46%	52%	55%

■ 推計値

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ミルハス	38,300	36,800	53,500	63,600	52,900	69,900

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ミルハス	79,400	68,400	42,800	36,700	41,000	43,600	626,900

③ 目標値

目標値

$$(110,000\text{人/年} + 50,000\text{人/年} + 48,000\text{人/年} + 626,900\text{人/年}) \div 365$$
$$\div 2,300\text{人/日}$$

（参考）現況値

	ミルハス	県立美術館	佐竹史料館	千秋美術館	計
入館者数（人）	305,219	66,314	3,319	5,673	—
日数（日）	214	275	91	73	—
1日あたり（人）	1,426	241	36	78	1,782

(3) 市内総人口のうち中心市街地人口が占める割合

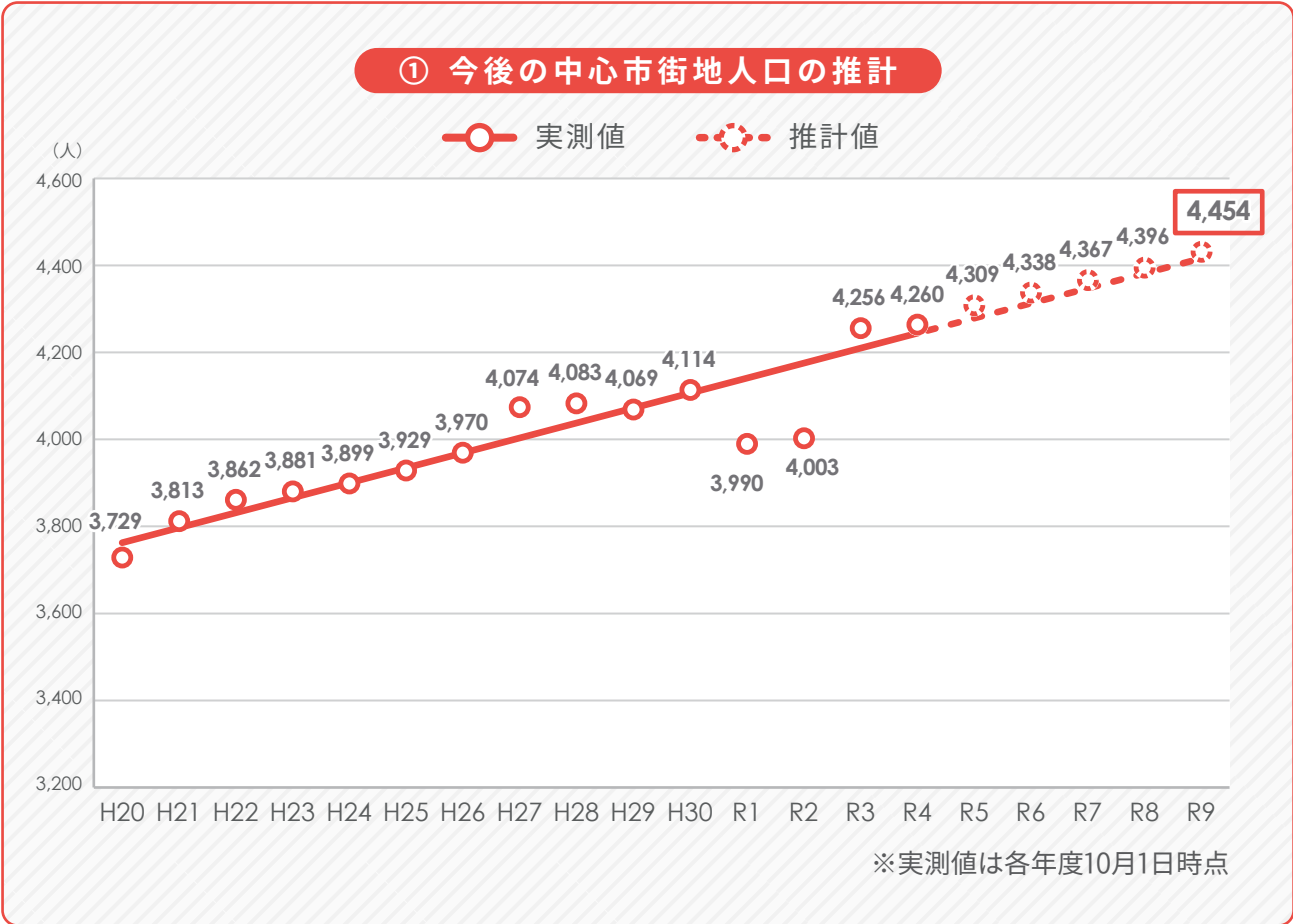
算出の考え方

- 今後の中心市街地人口の推計には平成20年度～令和4年度の傾向を利用。
- その他、現在計画されているマンション建設とリフォーム事業による人口増加を加味。
- 秋田市の総人口は「秋田市人口ビジョン」の目標より推計。

算出方法

- ① 将来の中心市街地人口を平成20年度～令和4年度のトレンドから近似直線により算出。
- ② 令和4年10月以降に供給予定のマンション戸数に秋田市の平均世帯人員2.2人を掛け、マンション建設による増加人口を算出。
- ③ 中心市街地におけるリフォーム事業が平成29年度～令和3年度にかけ年間平均7件実施されており、今後も同程度の傾向で推移すると仮定し、秋田市の平均世帯人員2.2人を掛けリフォーム事業による増加人口を算出。
- ④ ①～③で算出した各人口を足し合わせて、中心市街地人口を算出。
- ⑤ 秋田市人口ビジョンから令和9年度の秋田市の目標人口を推計し、算出。
- ⑥ ④と⑤から中心市街地の人口割合を算出し、目標値を設定。

算出結果



② R4.10～R9にマンション建設により見込まれる増加

	計	備考
①供給戸数	516	
②平均世帯人員	2.2	秋田市平均世帯人数
③増加人口 (①×②)	1,135	

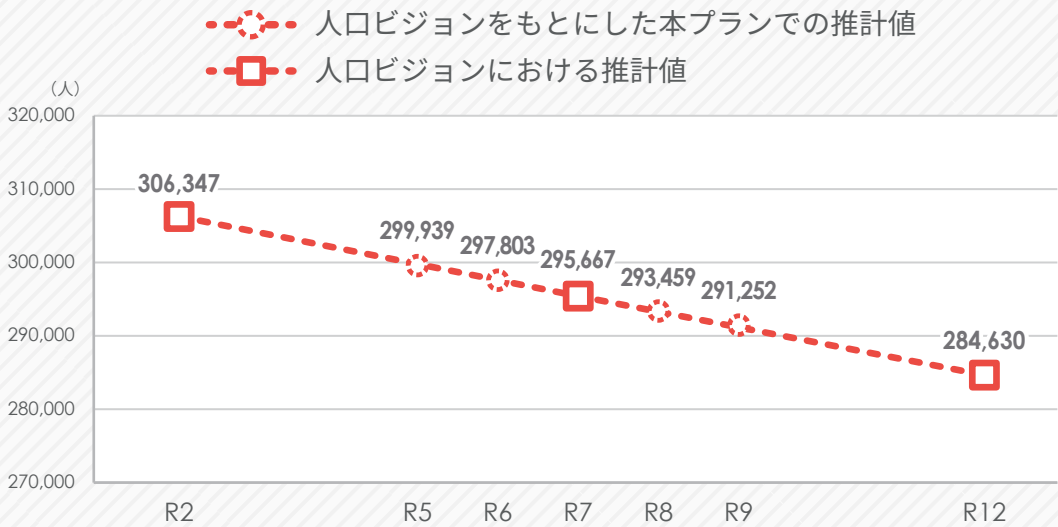
③ リフォーム事業による増加

	計	備考
①実施件数	35	H29～R3の平均×5年
②平均世帯人員	2.2	秋田市平均世帯人数
③増加人口 (①×②)	77	

④ R9の中心市街地の人口

中心市街地の人口 (R9) $4,454人 + 1,135人 + 77人 = 5,666人$

⑤ 秋田市将来人口推計



⑥ 目標値

目標値 (中心市街地の人口割合) $5,666人 \div 291,252人 \div 1.9\%$

現況 (R4の中心市街地の人口割合) $4,260人 \div 303,048人 \div 1.4\%$

(4) 商業集積促進関連制度の利用件数（累計）

算出の考え方

- 対象は「中心市街地等空き店舗対策事業」、「中心市街地出店促進融資あっせん事業」「商工業振興奨励措置事業」の利用件数の合計とする。
- 第2期計画の実績が目標値を大幅に上回ったため、その実績の維持を目標とする。

商業集積促進関連制度の利用件数

	(件/年)					
	H29	H30	R1	R2	R3	計
商業集積促進関連制度の利用件数	41	31	47	28	34	181

算出方法

- ① 第2期計画の実績値181件（平成29年度～令和3年度の累計）の維持。

(5) 市民活動等施設利用件数

算出の考え方

- 対象は「にぎわい交流館AU」、「市民交流プラザ」、「市民交流サロン」、「秋田市文化創造館」。
- にぎわい交流館AU、市民交流プラザ、市民交流サロンについては、新型コロナウイルス感染症影響前の令和元年度実績回復を目標とする。
- 秋田市文化創造館は、他施設における令和3年度と令和元年度との比率から推計し、算出。

算出方法

- ① にぎわい交流館AU、市民交流プラザ、市民交流サロンについては、新型コロナウイルス感染症影響前の令和元年度実績。
- ② 秋田市文化創造館は、令和3年度の実績値を基に、他施設における令和3年度と令和元年度との比率を掛け、令和9年度の値を推計し、算出。
- ③ ①～②を足し合わせて目標値を設定。

① 各施設のR1からR3の実績

	(件/年)		
	R1	R2	R3
にぎわい交流館AU	12,993	10,601	11,173
市民交流プラザ	5,970	3,413	3,831
市民交流サロン	422	232	320
計	19,385	14,246	15,324

② 秋田市文化創造館

- 3施設におけるR3とR1との比率（ $19,385 \div 15,324 \div 1.26$ ）

	(件/年)	
	実績	推計 (R3×1.26)
	R3	R9
秋田市文化創造館	196	246

③ 目標値

目標値（市民活動等施設利用件数）

$$12,993 \text{ 件/年} + 5,970 \text{ 件/年} + 422 \text{ 件/年} + 246 \text{ 件/年}$$
$$= 19,631 \text{ 件/年} \div 19,700 \text{ 件/年}$$

事業リスト

目標	番号	事業名	事業種	事業期間					事業主体	
				R5	R6	R7	R8	R9	市	民
人々が集いにぎわうまち	1	中心市街地魅力アップ事業	ソフト							●
	2	ギュギュっとあきた週末イベントリレー	ソフト							●
	3	ヤートセ秋田祭	ソフト							●
	4	6 なつかし資料活用事業	ソフト						●	
	5	これが秋田だ！食と芸能大祭典	ソフト							●
	6	新 まるっと秋田博	ソフト							●
	7	秋田犬ふれあい処 i n 千秋公園	ソフト							●
	8	千秋公園蓮の花ライトアップ	ソフト							●
	9	千秋公園桜まつり・つつじライトアップ	ソフト							●
	10	新 千秋公園魅力アップ推進事業	ハード ソフト						●	
	11	秋田竿燈まつり	ソフト							●
	12	クルーズ船等おもてなし態勢の充実事業	ソフト							●
	13	まちなか観光案内所運営経費	ソフト							●
	14	7 「酒と発酵」テーマの飲食イベント	ソフト						●	
	15	官民連携秋田駅周辺活性化事業	ソフト						●	
	16	秋田市民交流プラザ等修繕	ハード						●	
	17	高齢者コインバス事業	ソフト						●	
	18	千秋公園整備事業	ハード						●	
	19	秋田駅前北第一地区市街地再開発事業	ハード							●
	20	新 A K I T A まちなかウォークابل実証事業	ソフト							●
	21	中心市街地循環バス運行事業	ソフト						●	
	22	7 道路維持修繕事業（市道千秋久保田町山崎線舗装道改良）	ハード						●	
	23	新 商店街・地域中小企業団体等消費拡大支援事業	ソフト							●
	24	新 秋田駅前大型商業施設消費喚起支援事業	ソフト							●
	25	ノーザンステーションゲート秋田（秋田駅周辺のにぎわい創出事業）	ソフト							●
	26	5 広小路バザール	ソフト							●
	27	千秋蓮まつり	ソフト							●
	28	千秋花火（あきた元気祭り）	ソフト							●
	29	なかいち芸術文化施設連携事業	ソフト							●
	30	5 ノーザンステーションゲート秋田（秋田駅東口エリアにおける自社用地活用の検討）	ハード							●
	31	通町草市	ソフト							●
	32	通町通の市	ソフト							●
	33	招福狐の行列	ソフト							●
	34	通な花見で春らんまん	ソフト							●
	35	商店街スゴロク	ソフト							●
	36	秋田市商店街共通駐車券	ソフト							●
	37	仲小路の夏まちなか夜市	ソフト							●
	38	仲小路の秋まちなかハロウィン	ソフト							●
	39	星辻神社だるま祭り	ソフト							●
	40	新 アムズ（旧福祉相談センター等の利活用）	ソフト							●

目標	番号	事業名	事業種	事業期間					事業主体	
				R5	R6	R7	R8	R9	市	民
芸術文化が香るまち	41	5 あきた芸術劇場管理運営費	ソフト							●
	42	芸術文化のまちづくり推進事業	ソフト							●
	43	7 あきた芸術劇場3周年記念事業	ソフト							●
	44	「美術館の街」活性化事業	ソフト						●	
	45	5 秋田市立千秋美術館改修工事	ハード						●	
	46	民俗芸能伝承館経常事業	ソフト						●	
	47	5 佐竹史の魅力発信事業	ソフト						●	
	48	5 佐竹史料館改築事業	ハード						●	
	49	7 佐竹史料館開館準備経費	ハード						●	
	50	7 佐竹史料館常設展・教育普及等事業	ソフト						●	
	51	7 佐竹史料館企画展開催事業	ソフト						●	
	52	新 大森山アートプロジェクト推進事業	ソフト						●	
	53	障がい者アート活動支援事業	ソフト						●	
	54	6 秋田市国際フェスタ	ソフト						●	
暮らしがたくなるまち	55	秋田市住宅リフォーム支援事業	ソフト						●	
	56	秋田駅東口駅前広場施設改修	ハード						●	
	57	5 千秋久保田町地区優良建築物等整備事業	ハード							●
	58	秋田市空き家定住推進事業	ソフト						●	
	59	秋田駅西北地区土地区画整理事業	ハード						●	
	60	7 子育て交流室の運営	ソフト						●	
	61	7 子ども広場運営事業	ソフト						●	
で き る ま ち	62	中心市街地等空き店舗対策事業	ソフト						●	
	63	中心市街地出店促進融資あっせん事業	ソフト						●	
	64	チャレンジオフィスあきたの運営	ソフト						●	
	65	商工業振興奨励措置事業	ソフト						●	
	66	5 新規立地企業オフィス確保支援事業	ソフト						●	
	67	6 サテライトオフィス誘致推進事業	ソフト							●
	68	新 L i S H A K I T A	ソフト							●
つくる市民がまち	69	文化創造プロジェクト	ソフト						●	
	70	文化創造館管理運営経費	ソフト							●
	71	アルヴェきらめきパフォーマー事業	ソフト						●	
	72	市民協働・市民活動支援事業	ソフト						●	
新規事業 事業数：27 事業種 ハード事業数：12 ソフト事業数：61 事業主体 市：34 民：38 (ハードとソフトを兼ねた事業があるため、合計は事業数と合わない)										

※新規事業：令和4年度以降に実施、本格化した事業（5 6 7）：表示年度から掲載の新規事業、新：令和8年度の新規事業）
※リストに掲載されている事業のほかに、各種団体による中心市街地活性化に資する取組が実施されており、これらの取組についても中心市街地活性化に寄与しており、必要に応じ、情報共有や連携などを図ってまいります。

計画の推進にあたって

計画の進捗管理

本計画を適切に推進していくため、PDCAサイクルに基づく評価、見直しを行います。

01

計画策定
施策の策定

Plan
(計画)

02

施策の推進

Do
(実行)

PDCA
サイクル

04

施策の見直し
計画内容の見直し

Action
(改善)

Check
(評価)

03

目標値の達成状況
の確認
社会情勢の変化

フォローアップの実施

各目標指標について、令和9年度の目標値を設定していますが、期末の評価だけでなく、毎年各指標の進捗状況を把握し、フォローアップを実施します。

フォローアップの結果を踏まえて、施策の更なる強化など適宜見直しを実施し、期末での目標達成を目指します。また、新型コロナウイルス感染症のような予期せぬ社会情勢の変化にも対応していきます。

秋田市中心市街地活性化プラン

令和 5 年 3 月 策定

(令和 6 年 3 月 第 1 回変更、令和 7 年 3 月 第 2 回変更、
令和 8 年 3 月 第 3 回変更)

編集・発行

秋田市都市整備部都市総務課

〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号

TEL 018-888-5762 FAX 018-888-5763

URL <https://www.city.akita.lg.jp/>

イラスト制作

中須賀 愛美

(掲載ページ：34,36,38,40,42)



集い・楽しみ・住み・創る、選ばれるまち。